

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-BA • User's Manual

オフィスシリーズ Type-BA

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。
必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、
取り付け可能な装置について説明しています。
添付されているソフトウェアの使用方法や
インストール方法について説明しています。



ご使用前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。

けがや感電・火災の原因となります。



交流100Vの電源以外では使用しないでください。

指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



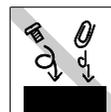
ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。



通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。

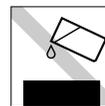
感電・火災の原因となります。



⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンター
または修理センターにご相談ください。



破損した電源コードは使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

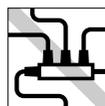
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談
ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

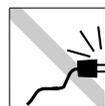
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくださ
い。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置し
ないでください。

口に入れたりすると窒息する危険があります。



マウスボールは絶対に投げないでください。

マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があ
ります。



雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。

感電の原因となります。



⚠ 注意

小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

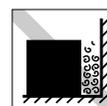


湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

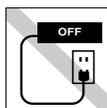


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
- ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



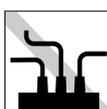
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。



拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外し、内蔵リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化などは、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



⚠ 注意

長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気（株）製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。
誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。





使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクドライブなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータにDIMMや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法について説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

付録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、CMOS RAMの初期化、仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の表記について (9)

製品保護上の注意 (12)

- 使用・保管時の注意 (12)
- 記録メディア (13)
- マウス (14)

使い始めるまでの準備

ご使用の前に 2

- コンピュータを使い始めるまでの手順 .. 2
- ご使用前の確認事項 3
- システムの特長 4
- 添付されているソフトウェア 5

各部の名称と働き 6

- 本体前面 6
- 本体背面 7

コンピュータの設置 8

電源の入れ方とWindowsのセットアップ 17

- Windowsが使用できるように
なるまでの作業 17
- 電源を入れる前に 18
- 電源の入れ方とWindowsの起動 19

セットアップ終了後の作業 24

- バックアップディスクの作成 24
- ネットワークに接続する 26
- Norton AntiVirus2002のインストール ... 26
- そのほかの設定 26

Windows使用時の確認事項 27

- 2回目以降に電源を入れる 27
- 省電力機能 27
- 音量の調節 28

- デバイスドライバをインストールするときは ... 28
- ステップバイステップインタラクティブ
の実行について(Windows XPのみ) ... 28

電源の切り方 29

- Windows 2000の終了と電源の切り方 .. 29
- Windows XPの終了と電源の切り方 .. 30
- リセット 31

コンピュータの基本操作

キーボードを使う 34

- キーの種類と役割 34
- 文字を入力するには 35
- 日本語を入力するには 35
- キーロック表示ランプ 36
- Fnキーと組み合わせて使うキー 36
- そのほかのキー 37

マウスを使う 38

- マウスの操作 38
- マウスの設定変更 38

FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う 39

- FDのセットと取り出し 40
- FDのフォーマット 42
- データのバックアップ 43
- ライトプロテクト(書き込み禁止) .. 43

HDD (ハードディスクドライブ) を使う 44

- データのバックアップ 44
- 購入時のHDD領域について 44

CD-ROMドライブを使う 45

- CD-ROMのセットと取り出し 45
- 強制的なCD-ROMの取り出し 48

ディスプレイ機能を使う	49
使用できるディスプレイ	49
解像度や表示色を変更するには	51
表示できる解像度と表示色	52
ディスプレイの設定	52

サウンド機能を使う	53
外部オーディオ機器などの接続	53
音声の再生・録音	54

省電力機能を使う	55
省電力機能の種類	56
省電力機能を実行する前の確認事項 ..	57
実行方法	59
復帰方法	61

そのほかの機能	62
ネットワーク機能を使う	62
パラレルコネクを使う	63
シリアルコネクタを使う	63
USBコネクタを使う	64
コンピュータウィルスの検索・駆除 ...	64

システムの拡張

拡張できる装置	66
作業時の注意	67
本体カバーの取り外し・取り付け	68
本体カバーの取り外し・取り付け ..	68
DIMMの増設	71
DIMMの仕様	71
DIMMの取り付け・取り外し	72
拡張ボードの装着	75
拡張スロットの仕様	75
拡張ボードの取り付け・取り外し ..	76

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	82
BIOS Setupユーティリティの操作	83
BIOS Setupユーティリティの起動 ..	83
BIOS Setupユーティリティの操作 ..	84
設定値をもとに戻すには	86
BIOS Setupユーティリティの終了 ..	87
BIOS Setupユーティリティの設定項目	88
Mainメニュー画面	88
Passwordの設定	90
Advancedメニュー画面	92
Powerメニュー画面	93
Bootメニュー画面	94
Exitメニュー画面	94
BIOSの設定値	95

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください	98
再インストールが必要な場合	98
重要事項	98
ソフトウェアの再インストールを行う	99
必要なメディア	99
インストールの順番	100
インストール作業における確認事項 ...	100
Windowsのインストール	102
デバイスドライバのインストール ...	108
マウスドライバのインストール	110
Adobe Acrobat Readerのインストール ..	111
Norton AntiVirus2002のインストール ..	111
そのほかの作業	112

こんなときは

困ったときに	116
コンピュータ本体の不具合	116
省電力機能に関する不具合	119
キーボードの不具合	120
マウスの不具合	121
ディスプレイの不具合	122
FDDの不具合	124
HDDの不具合	125
CD-ROMドライブの不具合	126
アプリケーションソフトの不具合	127
メモリの不具合	128
インストール時の不具合	128
拡張ボード、周辺機器の増設に 関する不具合	129
プリンタの不具合	130
内蔵スピーカの不具合	130

警告メッセージが表示されたら	131
-----------------------	-----

付録

お手入れ	134
本機のお手入れ	134
マウスのお手入れ	134
リチウム電池の交換	136
CMOS RAMの初期化	139
コンピュータ内部のケーブル接続	142
機能仕様一覧	143
用語集	144
索引	151

マニュアル中の表記について

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



1 2



制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載しています。

参考事項です。

覚えておくと便利なことを記載しています。

説明文が次ページに続くことを示します。

参照ページを示します。

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。

この例では、を押したまま を押します。

名称の表記

本書では、コンピュータで使用する次の製品の名称をアルファベットで表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows XP

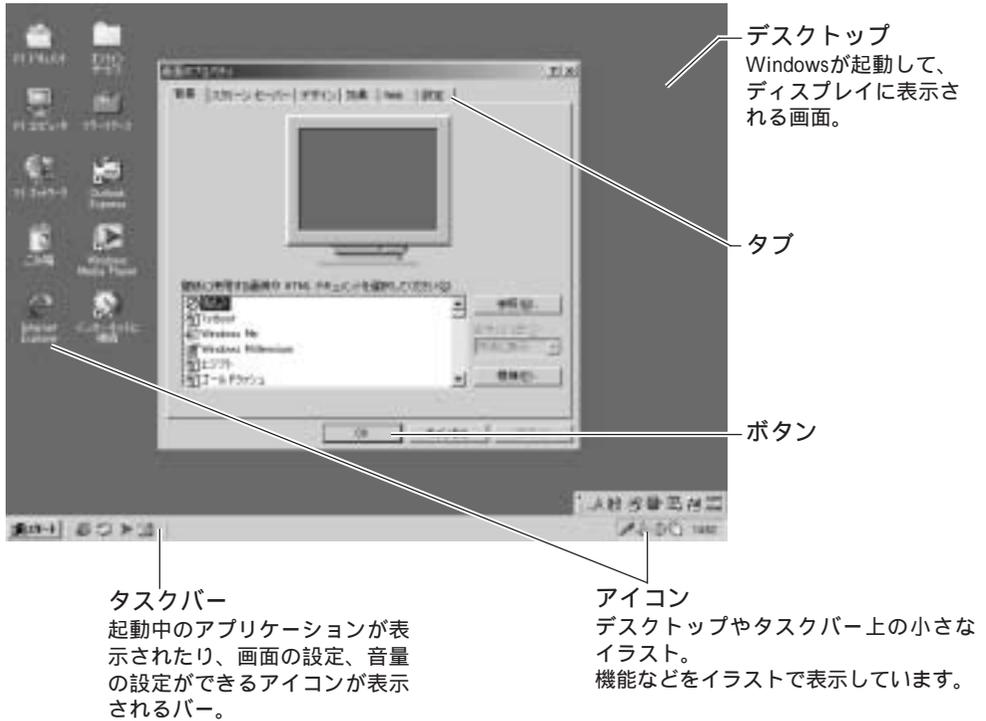
Microsoft® Windows® XP Professional

MS-DOS

Microsoft® MS-DOS® Operating system

Windows 2000の画面表示に関する記載方法

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは、[]で囲んで記載します。

例  スタート : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

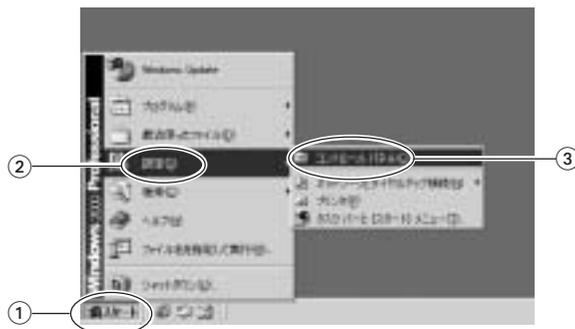
本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

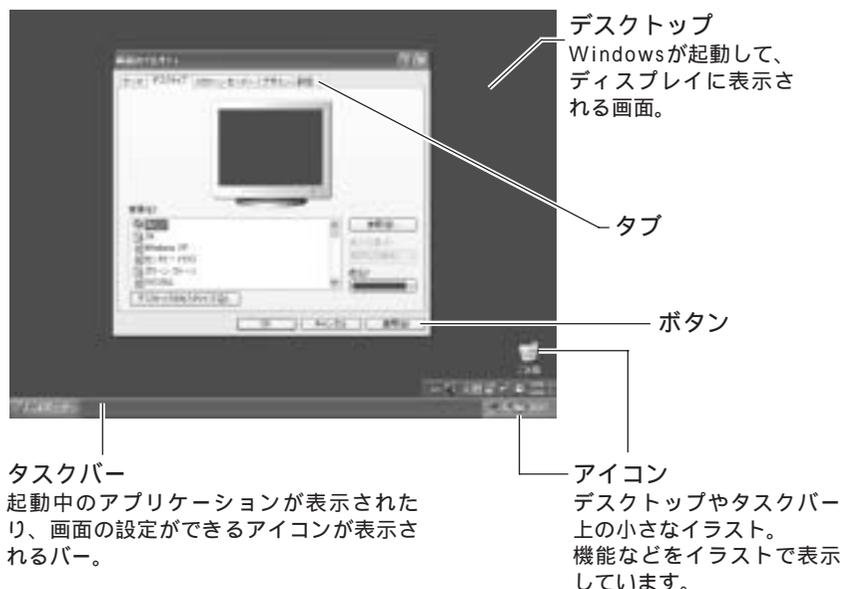


Windows XPの画面表示に関する記載方法

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

マニュアル中で使用している画面は、おもにWindows 2000のものです。

Windows XPで表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



ボタンは  で囲んで記載します。

例  : [スタート]  : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

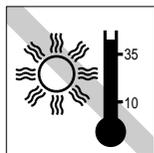
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



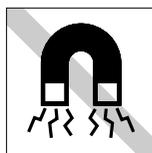
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

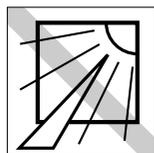
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



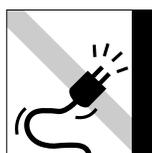
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~35 です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破損することがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



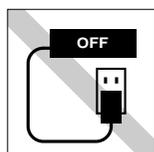
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



本製品の上には重い物を載せないでください。（本製品が横置きの場合には、18kgまでのディスプレイを載せることができます。）
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源を切っても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



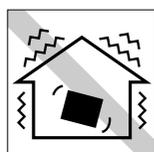
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器 HDD、CD-ROMドライブなど 汚含めて、故障、誤動作の原因となります。



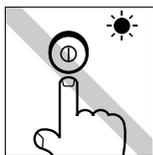
コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



輸送や保管をするときは、付属物（FD、CD-ROMなど）をセットしたままにしないでください。
付属物は取り出し、配線ケーブルはすべて外してください。



アクセスランプ点灯中は、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

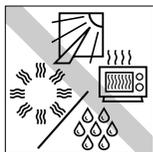
FD

CD-ROM・CD-R・CD-RW・DVD-ROMなど

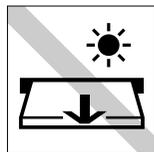
FD

CD

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



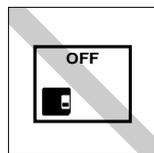
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯/点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。



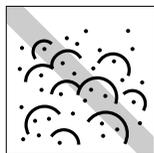
上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



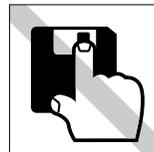
キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

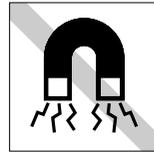


アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。

FD



磁性面にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD

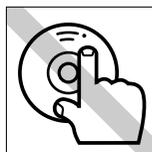


テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD



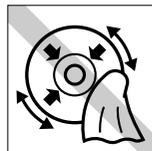
何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**



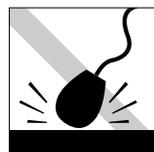
CD-ROMなどのメディアにシールを貼らないでください。 **CD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないでください。 **CD**

マウス

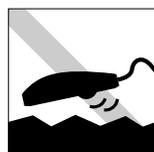
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



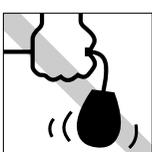
落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

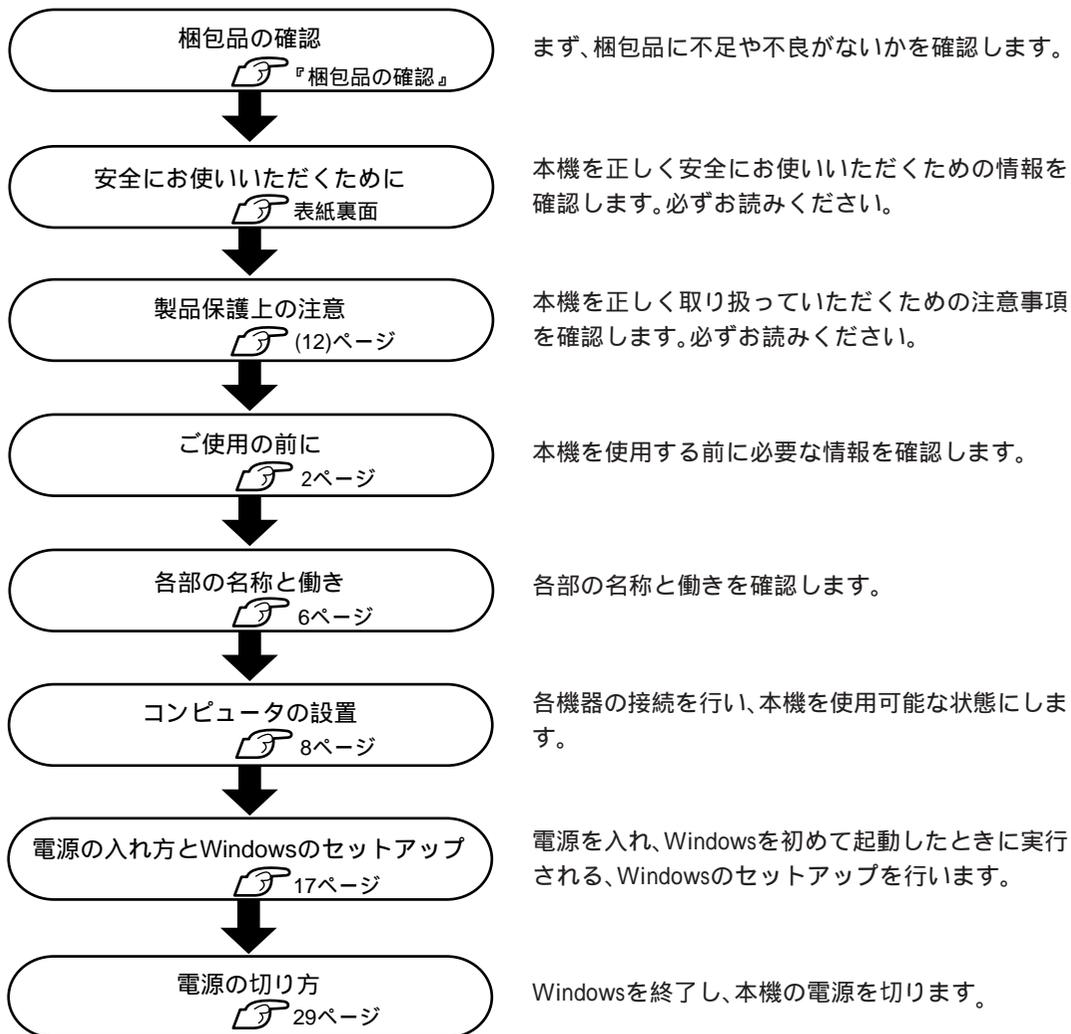
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

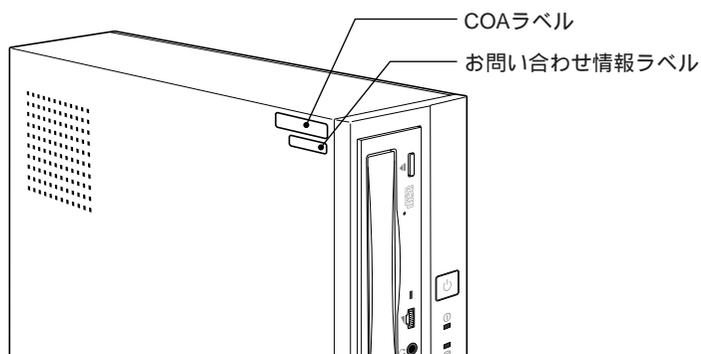
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をお読みください。

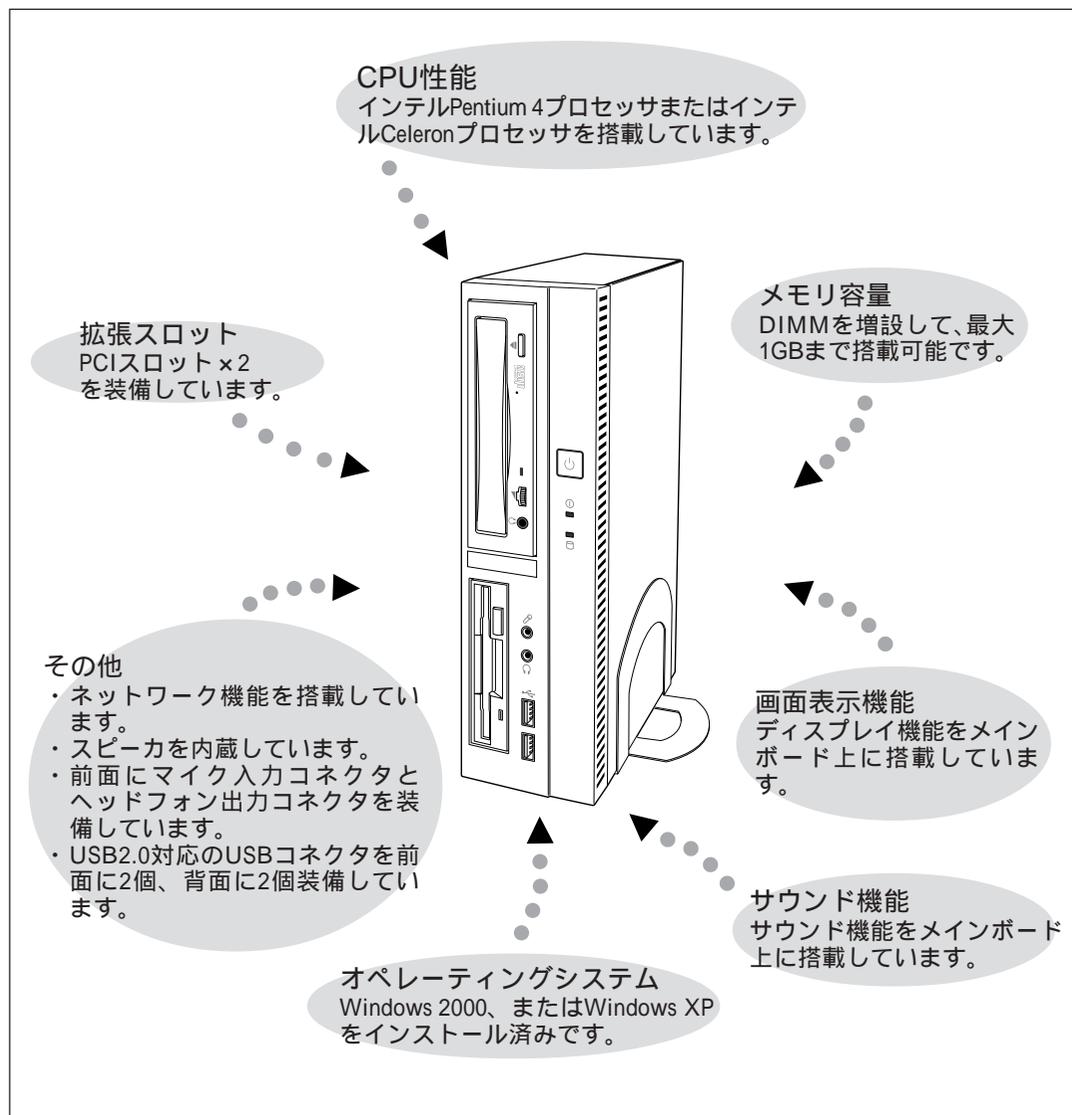
COAラベル

COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)は、正規のWindowsを購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。



添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアは次のとおりです。

表中記号の見方



: 購入時にHDDにインストールされています。



: 購入時にはインストールされていません。Windowsのセットアップ後にインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア

Windows

Windowsは最新のものがインストールされています。



マウスドライバCDに登録されているソフトウェア

マウスドライバ

ホイール付きPS/2マウスを使用するためのデバイスドライバです。



ドライバCDに登録されているソフトウェア

Intel845GLチップセット用ドライバ

メインボード上のデバイスを正常に使用できるようにするためのドライバです。



ディスプレイドライバ

Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。



サウンドドライバ

音を鳴らしたり、録音したりするためのデバイスドライバです。



ネットワークドライバ

ネットワーク機能を使用するためのデバイスドライバです。



USB2.0ドライバ

USB2.0機能を使用するためのドライバです。



Norton AntiVirus2002

最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。



Adobe Acrobat Reader

様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルを表示したりプリントができるソフトウェアです。



DirectX8.1(Windows 2000インストールモデルのみ)

ゲームなどのマルチメディアアプリケーションを快適に使用するためのソフトウェアです。



バックアップディスクを作成するソフトウェア*

マニュアル(PDFファイル)

『ユーザーズマニュアル』(本書)がデスクトップ上でいつでも見られるようにPDF化されています。

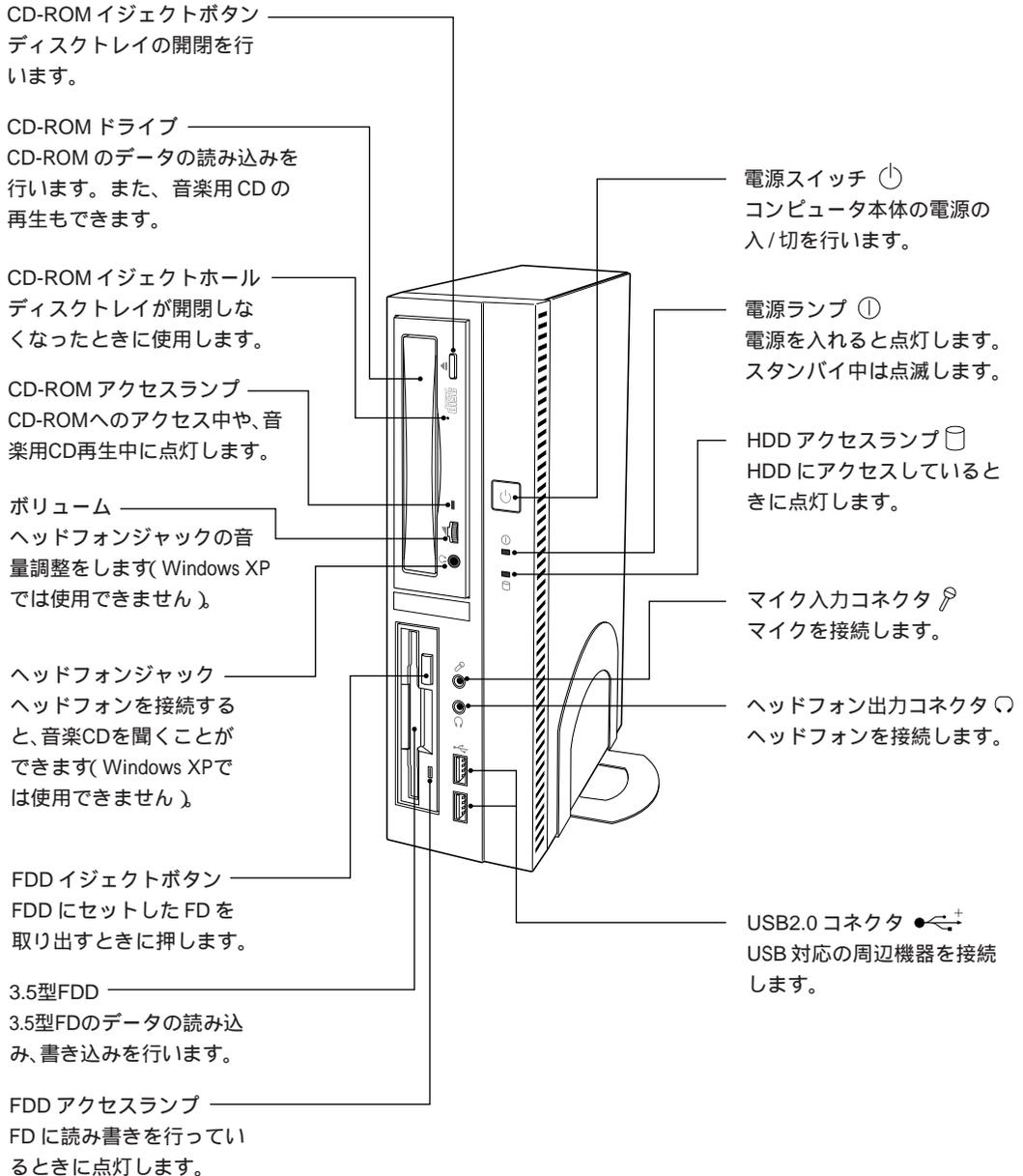


*購入時のシステム構成によっては、上記以外のソフトウェアのバックアップディスクを作成する場合があります。

各部の名称と働き

本体前面

購入時のシステム構成により、CD-ROMドライブの代わりにCD-R/RWドライブなど別のドライブ装置が装着されている場合もあります。この場合、ドライブ装置の各部の名称と働きは、ドライブ装置に添付のマニュアルでご確認ください。



本体背面



ゲームポート/MIDIコネクタの形状は、日本電気(株)製PC-9801シリーズ用ディスプレイコネクタと同じ形です。

誤ってディスプレイをゲームポート/MIDIコネクタに接続しないでください。接続すると、火災の危険があります。

USB2.0 コネクタ 
USB 対応の周辺機器を接続
します。

シリアルコネクタ 
TA や外付けモデムなど、RS-
232C インタフェースに対応
した装置を接続します。

VGAコネクタ 
VGA入力端子を装備してい
るCRTディスプレイやLCD
ディスプレイなどとアナロ
グ(VGA)ケーブルで接続し
ます。

ライン出力コネクタ 
アンプ内蔵スピーカやヘッ
ドフォンなどを接続します。

ライン入力コネクタ 
カセットデッキなどのオー
ディオ機器の出力信号線を
接続します。

マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。

DVI-Dコネクタ 
DVI入力端子を装備しているLCD
ディスプレイとデジタル(DVI-D)
ケーブルで接続します。(DVI-Iケー
ブルは接続できません。)

キーボードコネクタ 
キーボードを接続します。

マウスコネクタ 
マウスを接続します。

ネットワークコネクタ 
ネットワークケーブルを接続
します。

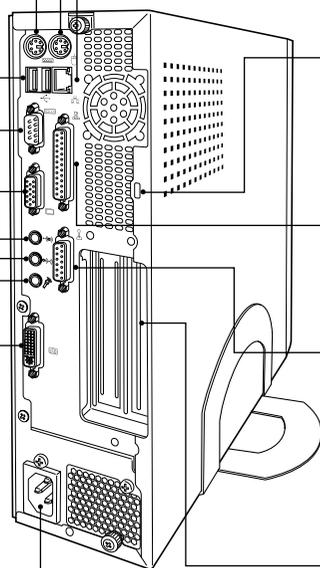
セキュリティロックスロット
市販の盗難防止用ケーブル
(ワイヤー)を接続します。

パラレルコネクタ 
プリンタや、スキャナなどを
接続します。

ゲームポート/MIDIコネクタ 
ジョイスティックなどを接続
します。

拡張スロット
拡張ボードを装着します。

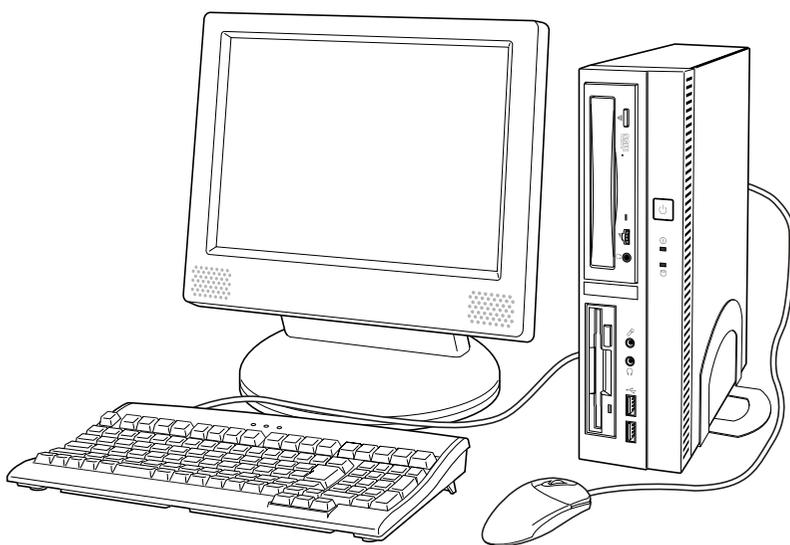
電源コネクタ
添付の電源コードを接続して
電気を供給します。



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ終了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。



設置における注意



注意

- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、p(12)「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



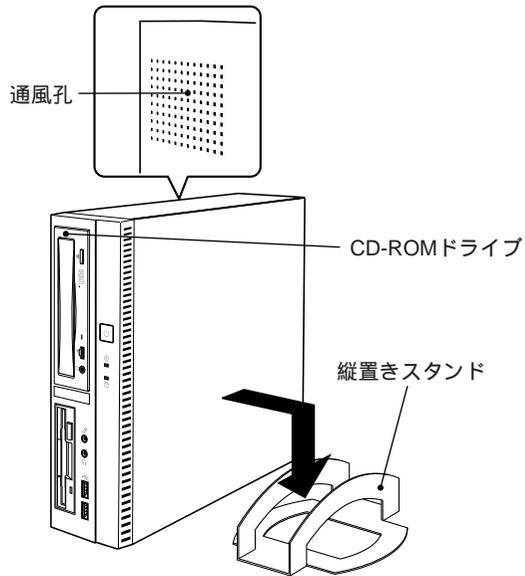
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

1

作業スペースに応じて、本機を縦置きまたは横置きのどちらにするか決め、設置準備を行います。

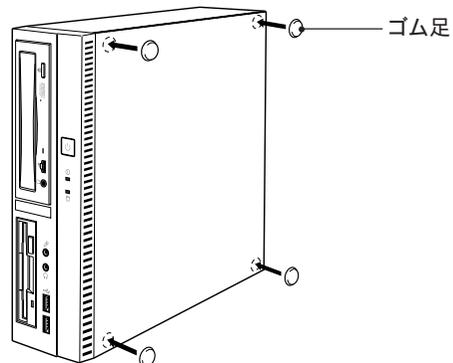
縦置きにする場合

- ① CD-ROMドライブを上にして縦置きスタンドにセットします(設置した際に、左側面の通風孔をふさがないようにしてください)。
- ② 本体が安定するようにスタンドの位置を調節します。

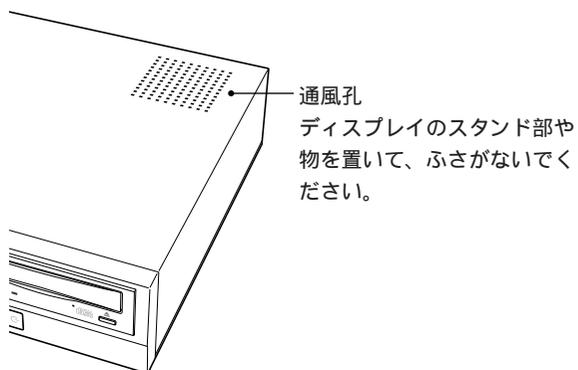


横置きにする場合

- ① 添付のゴム足(4個)を本体底面の四隅に付けます。



- ② 本機を横置きにします。
- ③ ディスプレイを上に乗せて使用する場合は、ディスプレイのスタンド部分で通風孔をふさがないようにします。

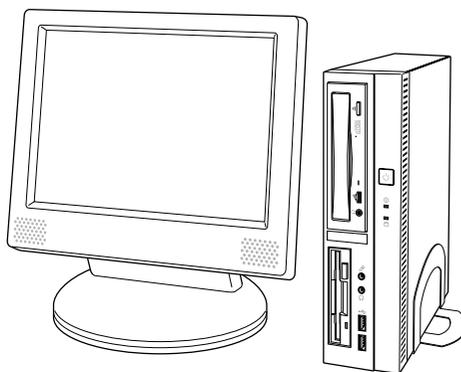


制限

本機の上に乗せられるディスプレイの重さは18kgまでです。それ以上の重さのディスプレイは載せないでください。

2

本機とディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。



以降は、本機を縦置きにして設置し、各ケーブルを接続する手順を説明します。本機を横置きにして使用する場合も、設置・接続の手順は同様です。

ディスプレイの接続

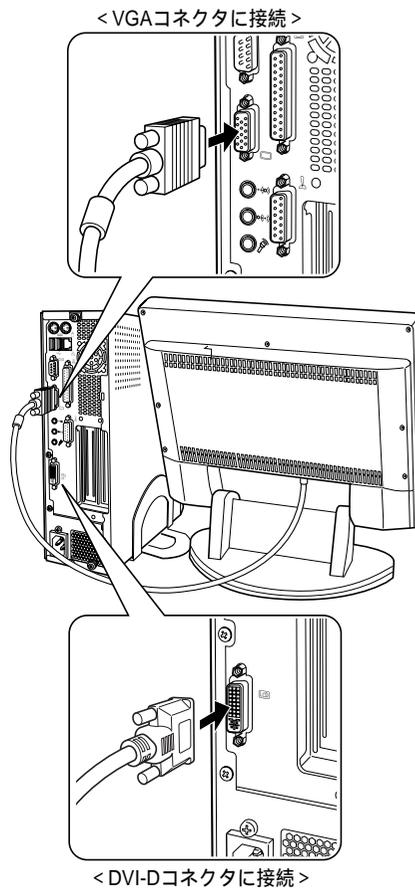
ディスプレイの接続方法や注意事項などの詳細については、お使いになるディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3

使用するディスプレイがアナログ方式かデジタル方式かを確認し、ディスプレイの接続コードを該当するコネクタに接続します。

アナログ(VGA)方式ディスプレイの場合 : VGAコネクタ

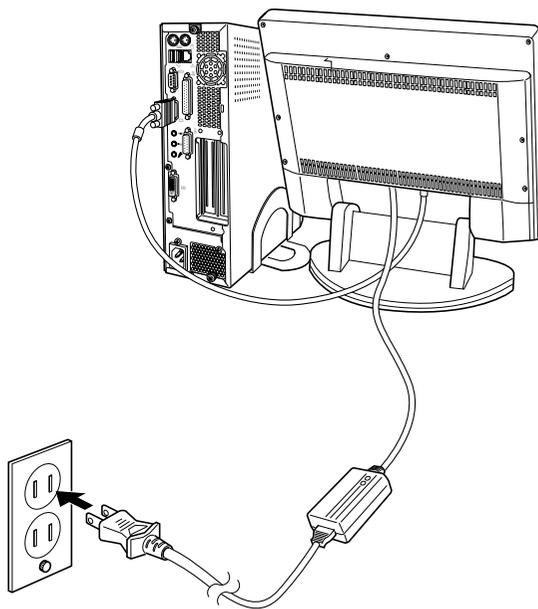
デジタル(DVI-D)方式ディスプレイの場合 : DVI-Dコネクタ



4

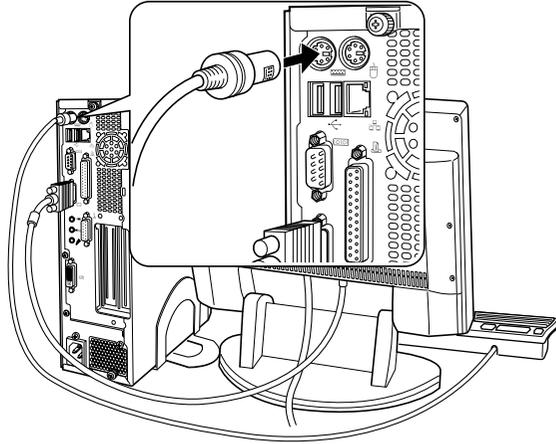
ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。

接続方法はお使いになるディスプレイにより異なります。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。



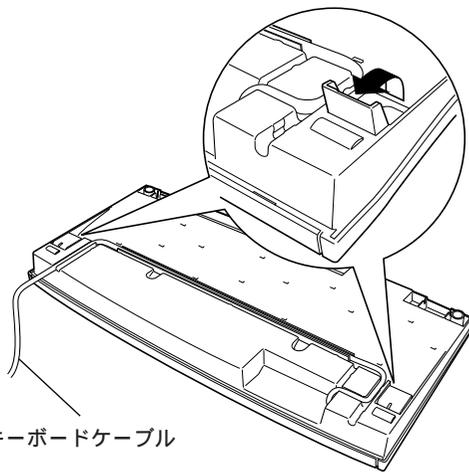
キーボードの接続

- 5** キーボードケーブルのコネクタを本機のキーボードコネクタ(紫色)に差し込みます。



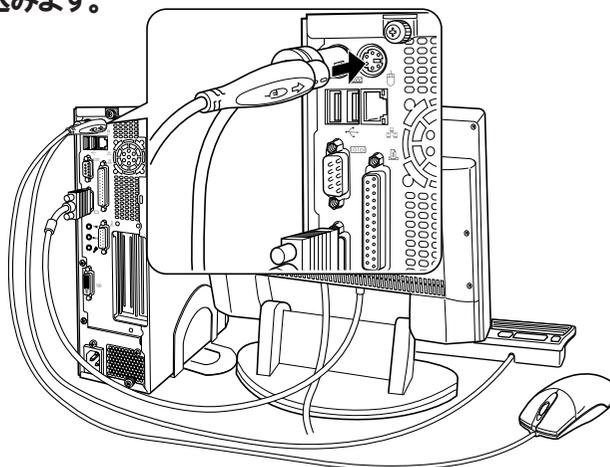
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こす。
- キーボードケーブルを、左右どちらかの底面の溝から引き出す。



マウスの接続

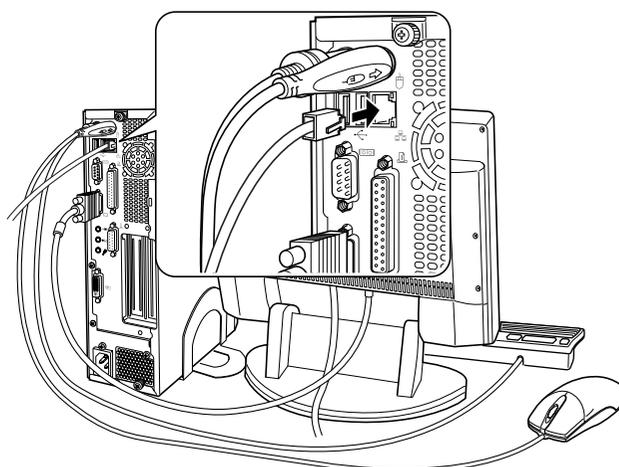
- 6** マウスケーブルのコネクタを本機のマウスコネクタ(緑色)に差し込みます。



ネットワークへの接続

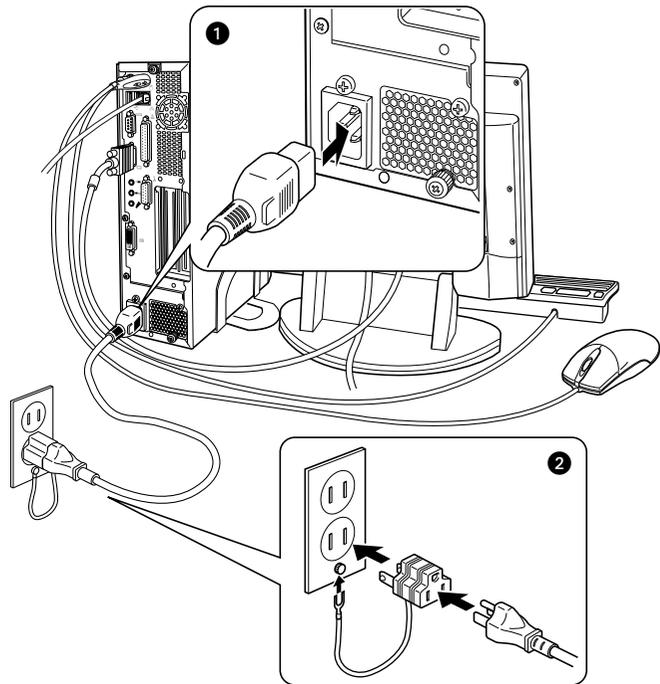
- 7** ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワーク用ケーブルをネットワークコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。



8 電源コードを接続します。

- ① 電源コードを本機の電源コネクタに接続します。
- ② 添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、家庭用電源コンセントに接続します。
アース端子が付いているコンセントの場合、電源コードのアース線を接続します。



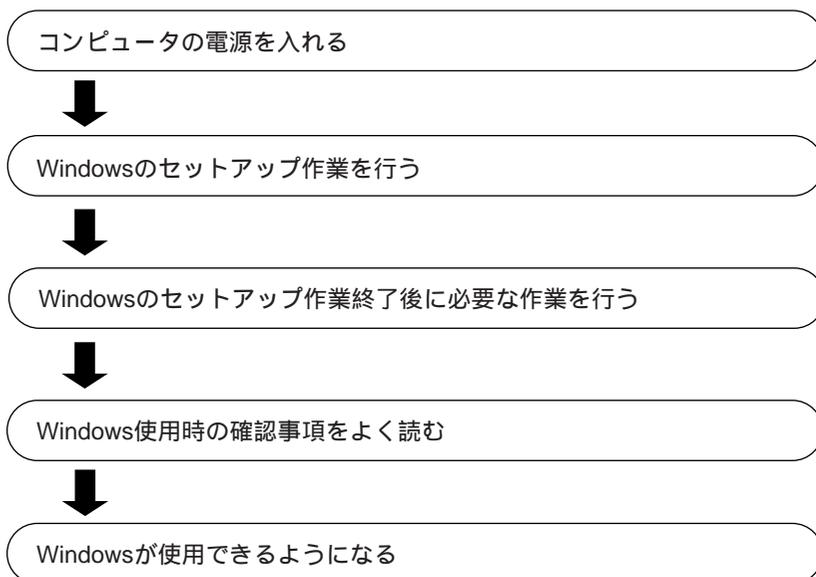
これでコンピュータの設置は終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、本機を購入後に、初めて電源を入れてから、Windowsを使用できる状態にするまでの作業を説明します。

Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。詳細は、次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの
セットアップとは 「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に行うことができます。

マウスの使い方 Windowsのセットアップは、マウスで行います。
セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタも、マウスを動かした方向に動きます。



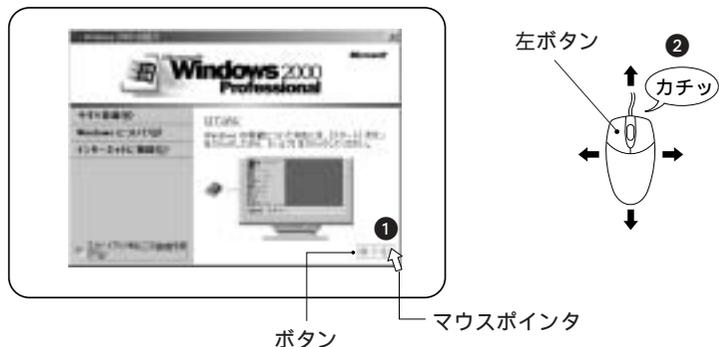
ボタンをクリックする

① マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。

② マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

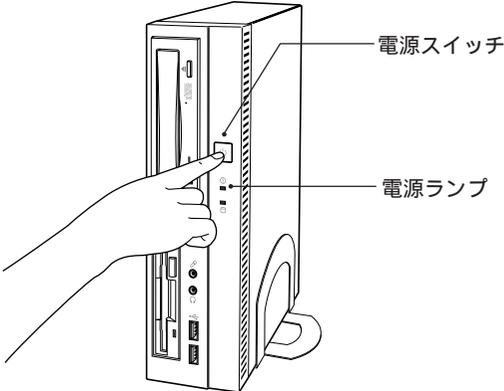
ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源を入れます。
- 2 本機の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。


- 3 画面にコンピュータの仕様などが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
 続けてWindowsのセットアップを行います。
 Windows 2000インストールモデル  p.20
 Windows XPインストールモデル  p.22

 電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は、次の事項を確認してください。
 電源ランプが点灯しない場合
 電源コードが正しく接続されているか確認してください。
 画面に何も表示されない場合
 ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

Windows 2000 インストールモデル

1 Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を設定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[再起動]をクリックするとコンピュータが再起動します。

- 2 Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これでWindows 2000セットアップは終了です。



続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかどうかを設定します。「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」にコンピュータ名を入力します。本機をネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Administratorのパスワードを管理者の指示に従って入力します。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので、[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択し、[次へ]をクリックします。

コンピュータを使用するユーザーの指定

↓ このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

- 2 Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックするとWindowsのデスクトップが表示されます。

続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。



参考

ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について
 セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート]
 -「ファイル名を指定して実行」-「REGWIZ /R(はスペース)を実行
 します。ウィザード画面の指示に従ってください。
 ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるため
 のものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。
 当社より提供されたWindows XR「購入時にコンピュータにインストール
 されているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの」
 は、ライセンス認証を行う必要はありません。

セットアップ終了後の作業

Windows のセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成



バックアップディスクを作成する前にHDDをフォーマットしてしまうと、バックアップディスクは作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。「バックアップFD作成ユーティリティ」は、購入時にHDDにインストールされているが、「ドライブCD」などの添付ディスクに登録されていない、次のようなソフトウェアのバックアップディスクを作成するユーティリティです。

本機のユーザーズマニュアルのPDFファイル
添付のディスク類に登録されているデバイスドライバの最新版
添付のディスク類に登録されていないデバイスドライバ

購入時のシステム構成によって、作成するディスクが異なります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

 p.42「FDのフォーマット」

バックアップ ディスクの作成

起動方法

次の方法で、バックアップFD作成ユーティリティを起動します。

Windows 2000インストールモデルの場合

[スタート]-「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

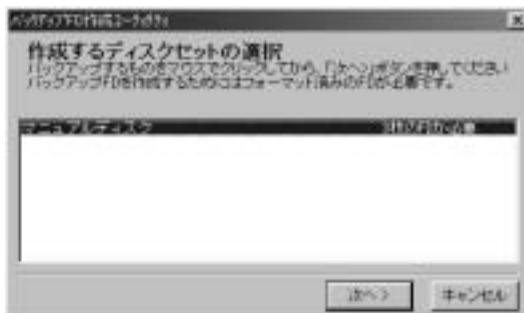
Windows XPインストールモデルの場合

[スタート]-「すべてのプログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

作成方法

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」と表示されます。



- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、「次へ」をクリックします。
- 3 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 同様にして「作成するディスクセットの選択」画面に表示されているすべてのディスクセットを作成します。
作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管しておいてください。
 p.43「ライトプロテクト(書き込み禁止)」



マニュアルディスクについて

マニュアルディスクには、デスクトップ上の「ユーザーズマニュアル.pdf」が登録されています。Windowsを再インストールして、「ユーザーズマニュアル.pdf」をインストールする場合に、このディスクを使用します。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルやネットワーク管理者の指示に従ってください。

Norton AntiVirus2002のインストール

購入時には、コンピュータウイルスを検出し駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」がインストールされていません。「Norton AntiVirus2002」をインストールします。

 『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』

その他の設定

購入時にFAXモデムボードなどを装着している場合は、使用できるように設定を行います。

 各装置に添付のマニュアル

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項の確認を行ってください。

Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうないように注意しましょう。

 p. 55「省電力機能を使う」

電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電氣的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

省電力機能

本機では、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合は、電源ランプの点灯/点滅を確認し、次の操作を行うと、元の状態に戻すことができます(購入時の設定の場合)。

 p.55「省電力機能を使う」

電源ランプ	操作
緑点灯	キーボードやマウスを操作する。
緑点滅	電源スイッチを押す。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には、「ボリュームコントロール」機能で音量を調節します。

画面右下のタスクバーに表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

「スピーカ」アイコン



つまみ

ボリュームコントロール

< Windows 2000の場合 >



参考

Windows XPをお使いの場合、Windows XPを再インストールすると、「スピーカ」アイコンがタスクバーに表示されなくなります。タスクバーに表示させるには、[スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」-「タスクバーに音量アイコンを配置する」にチェックを付けます。

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD(Windows XPはリカバリCD Disc1)」をセットしてください。

ステップバイステップインタラクティブの実行について(Windows XPのみ)

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」の実行は、[スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」-「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやFDDのアクセスランプ点灯中にコンピュータの電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。

本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-[終了オプション]をクリックします。
- 2 「コンピュータの電源を切る」画面で[電源を切る]をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3 ディスプレイや、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XP 終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替えて、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットを行う前に、作業中のデータをすべて保存してください。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows 2000 :[スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

Windows XP :[スタート]-[終了オプション]-[再起動]を選択

リセットできない ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl+**Alt**+**Delete** を押してリセットする



コンピュータがリセットできないときは...

コンピュータの電源スイッチを押す



コンピュータの電源が切れないときは...

コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。



コンピュータの基本操作

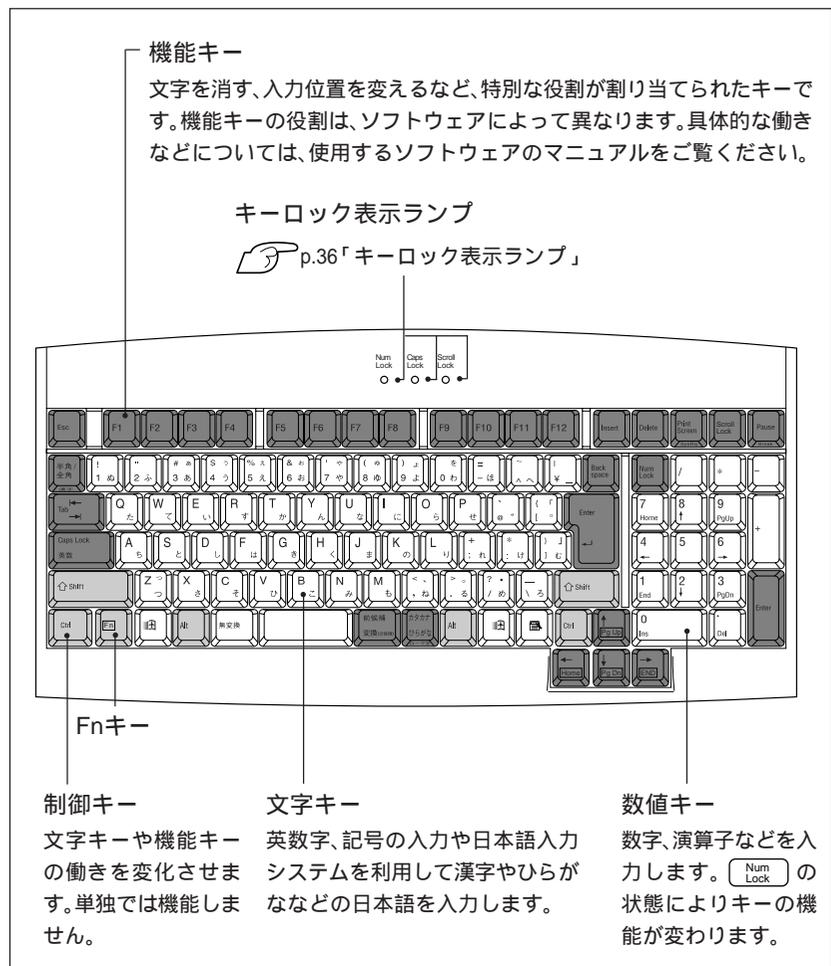
キーボード、マウスやFDDなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

キーボードを使う

本機に標準で添付されているキーボードは、106コンパクトキーボードです。
キーボードの接続方法については、p.8「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

106個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



文字を入力するには

文字キーを押すとキートップに印字された文字が入力されます。

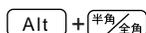
入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード

- ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
- かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え 直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは次のキー操作で行います。



日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや、漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行います。



<Windows 2000 の場合 >



<Windows XP の場合 >

- ① 入力モード
入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。
- ② ヘルプ
日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。
- ③ かなキーロック
日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプはキーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割 : 数値キーの状態を切り替え 切り替え :  を押します。 点灯 : 数値を入力 消灯 : カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割 : アルファベットの太文字/小文字の切り替え 切り替え :  +  を押します。 点灯 : 大文字を入力 消灯 : 小文字を入力
Scroll Lock	役割 : ソフトウェアによって異なります。 切り替え :  を押します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、 キーと組み合わせて使用することができます。

 + 	 (Page Up) の役割をします。
 + 	 の役割をします。
 + 	 (Page Down) の役割をします。
 + 	 の役割をします。

そのほかのキー

Windowsキー
とアプリケーションキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

Windowsキー	機能
	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	マウスの右クリックと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

マウスを使う

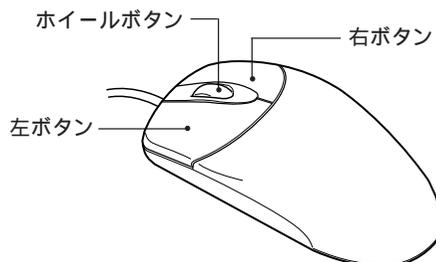
本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

ホイール機能を使用するには、専用の「マウスドライバ」のインストールが必要です。本機には、あらかじめ「マウスドライバ」がインストールされています。

マウスの操作



アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、「マウスのプロパティ」の各タブで行います。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

「マウスのプロパティ」の開き方は、デスクトップ右下のタスクバーに表示されている「マウス」アイコンをダブルクリックします。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする機器です。本機のFDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し



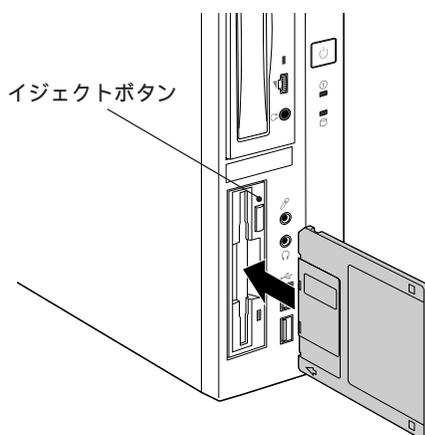
制限

FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。FD内のデータが破損する恐れがあります。コンピュータの電源を切る場合やコンピュータをリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

1

ラベル面をイラストのように向け、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
本機が横置きの場合は、ラベル面を上側に向けて押し込みます。

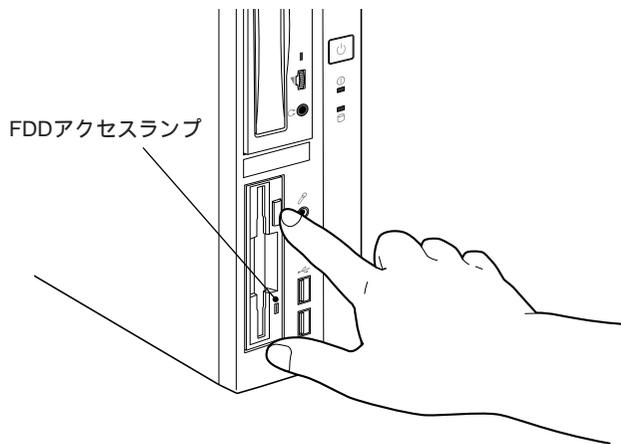


2

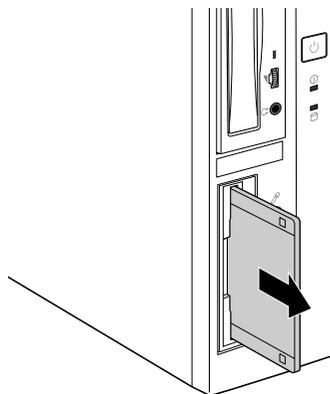
正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。



FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。メディアの種類に合ったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失されます。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

Windows XPでは、720KBの記憶容量のFDをフォーマットすることはできません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方法で行います。



制限

Windows 2000のフォーマットユーティリティでは、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～5を繰り返してください。

- 1 FDDにFDをセットして、「マイコンピュータ」を開きます。
Windows 2000の場合
デスクトップ上の「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
Windows XPの場合
[スタート]-「マイコンピュータ」をクリックします。
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK]をクリックします。

- 4 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4を繰り返します。(Windows XPのみ)
- 5 [閉じる] をクリックします。

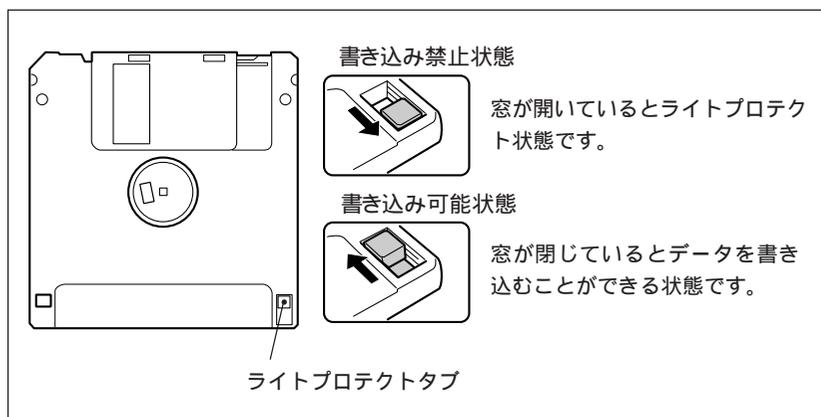
データのバックアップ

大切なデータは、別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万データが消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができません。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくとう安心です。

ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。



HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。

- ・ HDDを分解しないでください。
- ・ HDDアクセスランプ点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊される恐れがあります。ショックを与えないように注意してください。

データのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、FDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、すべての容量が1つの領域として確保され、NTFSでフォーマットされています。

HDD領域の構成を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.97「ソフトウェアの再インストール」

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための機器です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

購入時のシステム構成により、CD-ROMドライブの代わりにCD-R/RWドライブなど別のドライブ装置が装着されている場合もありますが、メディアのセットや取り出しなどの基本的な操作方法は、CD-ROMドライブと同じです。詳しい使用方法は、各ドライブ装置に添付のマニュアルをご覧ください。

CD-ROMのセットと取り出し



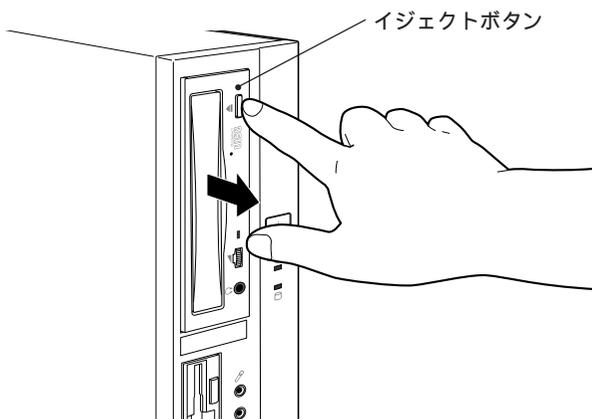
CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。

セット方法

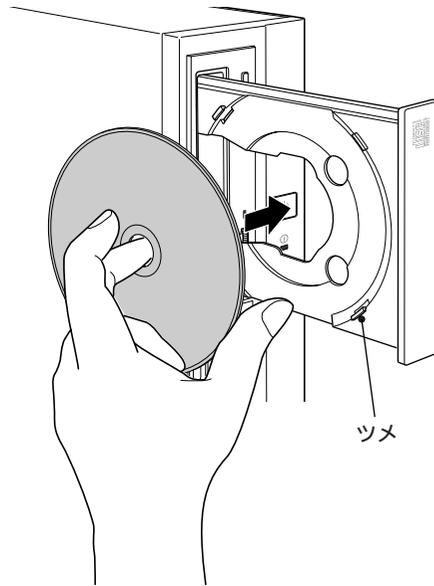
1

イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2 CD-ROMの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイのツメにはめ込むようにセットします。

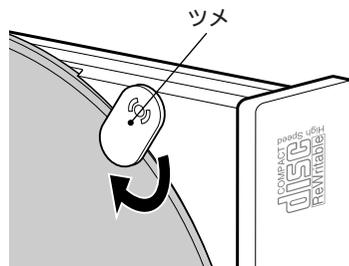
本機が横置きの場合は、CD-ROMの印刷面を上側に向けてセットします。



3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

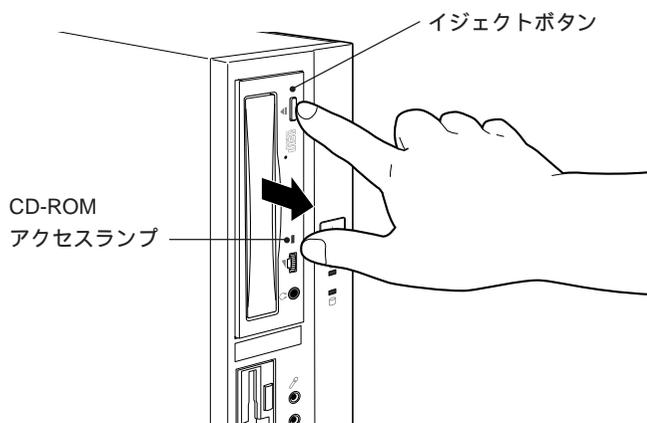
CD-ROMの
ツメについて

機種によりツメの形状が異なります。次のような形状の場合は、ツメを立てて、メディアを落とさないようにします。本機が横置きの場合は、ツメの操作は必要ありません。

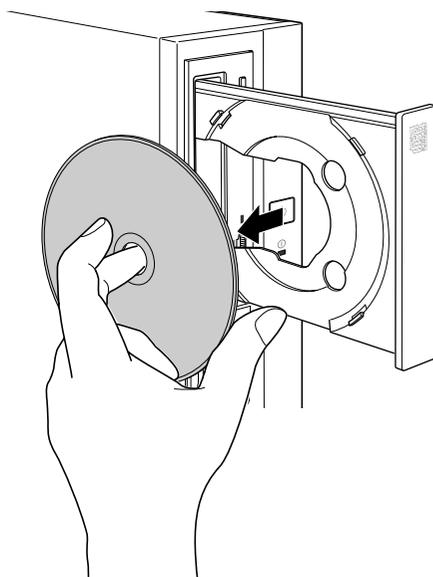


取り出し方法

- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 CD-ROMをディスクトレイから取り出します。



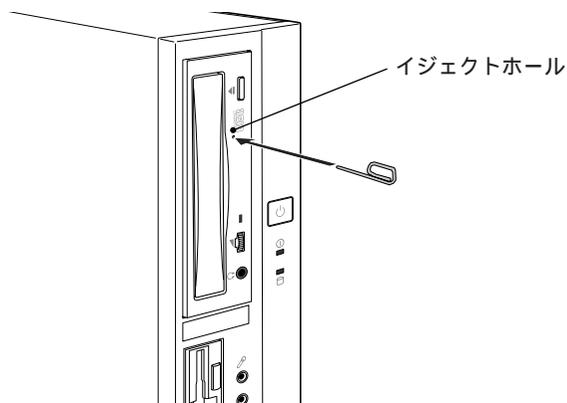
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

強制的なCD-ROMの取り出し

以下のような場合には、強制的にCD-ROMを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せない場合
CD-ROMをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 コンピュータの電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐディスクトレイを引き出し、CD-ROMを取り出します。

ディスプレイ機能を使う

本機のメインボード上には、ディスプレイ機能が搭載されています。解像度の設定などの基本的な操作について説明します。



セーフモードでの起動

ディスプレイの設定が正しくない場合や、本機のディスプレイ機能で表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

 p.122「ディスプレイの不具合」

使用できるディスプレイ

本機は、アナログディスプレイのほかに、デジタルディスプレイ(DVI-D)を接続することができます。そのため、次の組み合わせで表示させることができます。

- ・ アナログディスプレイのみ
- ・ デジタルディスプレイのみ
- ・ アナログディスプレイ + デジタルディスプレイ*

*同じ内容のみ表示できます。

ディスプレイの接続

ディスプレイは本機背面のVGAコネクタまたはDVI-Dコネクタに接続します。DVI-Dコネクタに接続する場合はDVI-Iケーブルは使用できません。

 p.12「ディスプレイの接続」

表示の切り替え

表示の切り替え方法は次のとおりです。

ディスプレイが1台接続されている場合

接続されているディスプレイを自動的に検出して表示します。

ディスプレイが2台接続されている場合

切り替え方法は、次ページの手順に従ってください。

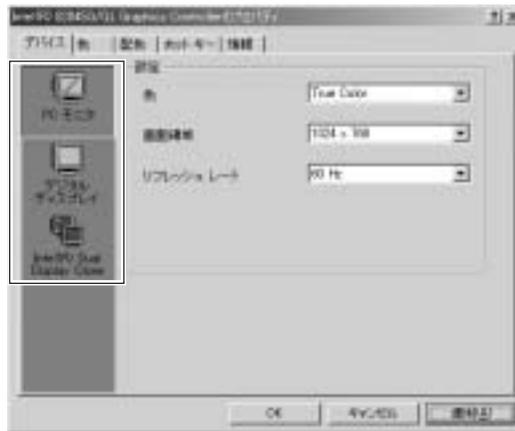


制限

アナログディスプレイから表示装置を切り替えるときは、アナログディスプレイの解像度がデジタルディスプレイの最大解像度以下に設定されているか確認してください。高い設定になっていると、表示装置を切り替えたときに、正しく表示されない場合があります。表示されなかった場合は、電源スイッチを押して1度本機の電源を切り、再度起動してください。

表示装置の切り替え方法は、次のとおりです。

- 1 「画面のプロパティ」を表示します。
Windows 2000の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」アイコンをダブルクリックします。
Windows XPの場合
[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面」をクリックします。
- 2 「設定」タブ - [詳細] - 「Intel(R) Graphics Technology」タブ - [グラフィックのプロパティ] をクリックします。
- 3 画面左側にあるボタンをクリックし、表示の切り替えを行います。



- 4 変更後は [適用] をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

解像度や表示色を変更するには

画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。
変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。

1 次の手順で設定画面を表示します。

Windows 2000の場合

- ① [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」アイコンをダブルクリックします。
- ② 「画面のプロパティ」画面が表示されたら、「設定」タブをクリックします。

Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。

2 設定したい解像度と表示色に変更します。

Windows XPでは、「画面の色」、「画面の領域」という表示は異なります。



< Windows 2000の場合 >

3 項目を変更したら、[適用]をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色



本機では、下記以外の設定を選択することができますが、それらの設定に関しては保証していません。

接続しているディスプレイによっては正常に表示できない解像度や表示色もあります。

本機のディスプレイ機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

Windows 2000
の場合

解像度 \ 表示色	256色	High Color (16ビット)	True Color (32ビット)
640 × 480 ドット			
800 × 600 ドット			
1024 × 768 ドット			
1280 × 1024 ドット			
1600 × 1200 ドット*			

* : アナログディスプレイ接続時のみ

Windows XP
の場合

解像度 \ 表示色	中(16ビット)	最高(32ビット)
800 × 600 ドット		
1024 × 768 ドット		
1280 × 1024 ドット		
1600 × 1200 ドット*		

* : アナログディスプレイ接続時のみ

ディスプレイの設定

ディスプレイの設定が正しくないと言解像度を変更することができません。次の場所で、接続しているディスプレイの設定を行ってください。

Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「画面」 - 「設定」
タブ - [詳細] - 「モニタ」タブ

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示と
テーマ」 - 「画面解像度を変更する」 - [詳細設定] - 「モニタ」タブ

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

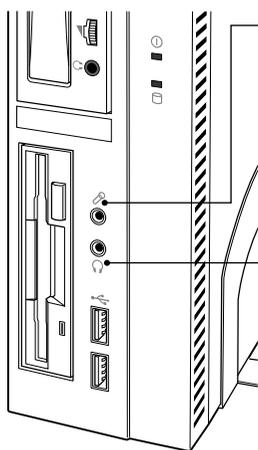
アンプ内蔵 スピーカ

本機には、アンプ内蔵スピーカが装備されています。このため、外部スピーカなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。スピーカの音量調節はp.28「音量の調節」を参照してください。

外部オーディオ機器などの接続

本機の前面と背面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

前面側



マイク入力コネクタ

マイクと接続して、音声を本機に
入力するためのコネクタです。入
力した音声は、本機のサウンド機
能を使って、録音や再生を行うこ
とができます。

ヘッドフォン出力コネクタ

ヘッドフォンやイヤフォンを接続
して、本機からの音声を出力す
るためのコネクタです。ヘッドフ
ォンなどを接続すると、本機のア
ンプ内蔵スピーカは自動的に無効
になります。

背面側

ライン出力コネクタ

外部接続用のアンプ内蔵スピーカなどを接続して、音声を出力するためのコネクタです。

ライン入力コネクタ

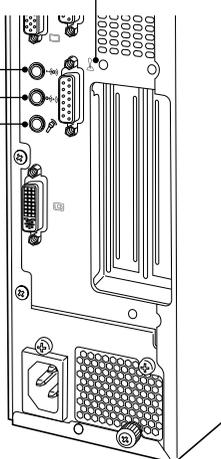
カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

マイク入力コネクタ

マイクを接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

ゲームポート/MIDIコネクタ

電子楽器など、MIDIに対応した機器を接続するコネクタです。また、ジョイスティックなど、ゲームなどに使用するコントローラを接続することもできます。



制限

ライン出力コネクタに外部スピーカなどを接続しても、本機のアンプ内蔵スピーカの音を切ることはできません。

音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。

サウンドユーティリティは、次のフォルダに登録されています。サウンドユーティリティの使い方は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

Windows 2000 : [スタート] - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテインメント」

Windows XP : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテインメント」

省電力機能を使う

省電力機能を利用すれば、コンピュータを使用していない間、ディスプレイの電源を切ったり、省電力モードに移行して、消費電力を抑えることができます。



省電力機能の設定は、「BIOS Setupユーティリティ」での設定よりもWindowsでの設定が優先されます。

次の状態でスタンバイまたは休止状態に入ると、正常に復帰できない、接続が切断される、誤動作するなどの現象が起こることがあります。

- ・ NetWareサーバーを利用している状態やNetBEUIを使用してネットワークに接続している状態
- ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたままの状態
- ・ サウンド機能を使って録音・再生しているとき
- ・ 電源管理機能との相性が良くない周辺機器を接続し、動作させている場合
- ・ アプリケーションを起動した状態または動作中

このような場合は、下記のいずれかの対処方法を取ってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする(Netwareサーバーを利用している場合のみ)
- ・ 再起動する
- ・ 省電力モードを無効にする

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプは緑色に点滅します。BIOSの設定(ACPI Suspend to RAM)により、消費する電力量などが異なります。

 p.57「スタンバイの動作状態」

休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

省電力機能を実行する前の確認事項

省電力機能を実行する前に、次の事項を確認してください。

スタンバイの動作状態

「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を、「Enabled」または「Disabled」に設定することにより、スタンバイの動作状態が異なります。

「Powerメニュー画面」-「ACPI Suspend to RAM」

購入時には、「Enabled」に設定されています。

「Enabled」設定時

「Enabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、本機のメモリ以外の電源が切れます。そのため電力はほとんど消費されません。また、通常モードにすぐに復帰できます。

「Disabled」設定時

「Disabled」に設定してスタンバイを実行すると、作業内容をメモリに保持した状態で、不必要な電源が切れます。電力消費は通常モードの約半分になります。通常モードへの復帰には、十数秒かかります。

スタンバイ実行時の制限事項

「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」に設定してスタンバイを実行する際には、次のような制限事項があります。

スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

スタンバイが正常に動作しない場合は、相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。

「Disabled」に設定してスタンバイを実行してください。

休止状態を有効にする

休止状態を有効にするには、次の設定が必要です。「コントロールパネル」-「電源オプション」-「休止状態」タブをクリックして、「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。



Windows 2000の場合

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。万一正常に復帰できない場合に備え、省電力機能を実行する前に使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないと省電力モードに移行します。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

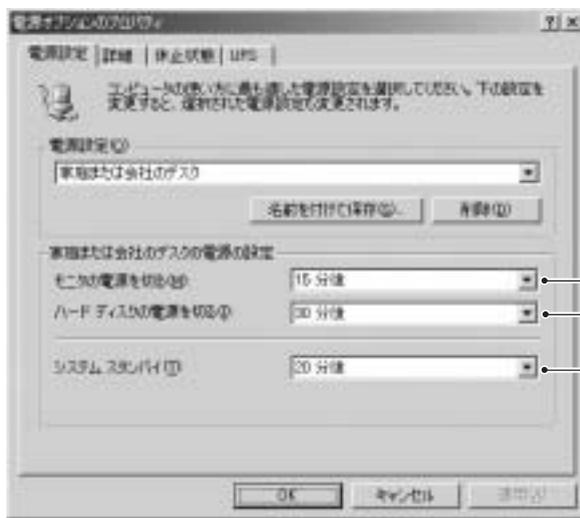
省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「電源オプション」

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。



設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

Windows 2000の場合

直ちに実行

次の方法で、スタンバイ、または休止状態を強制的に実行します。

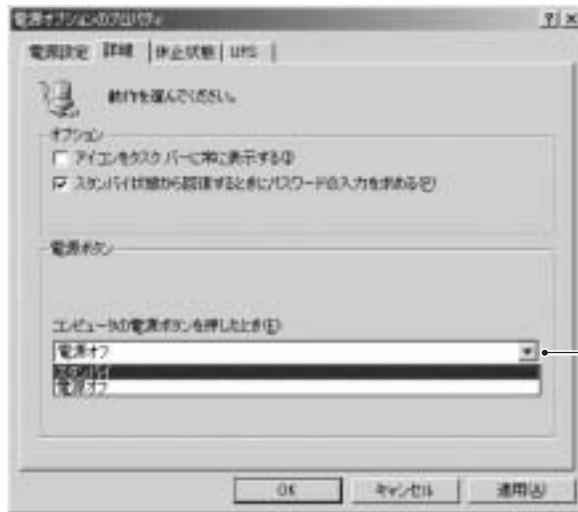
スタートボタンから実行する

Windows 2000 の場合 : [スタート] - 「シャットダウン」から選択実行します。

Windows XP の場合 : [スタート] - [終了オプション] から選択実行します。

電源スイッチを押して実行する

電源スイッチを押したときに、どのモードに入るかをあらかじめ「詳細設定」タブで設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

Windows 2000の場合

復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	緑点灯	キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM:Enabled)	緑点滅	電源スイッチを押します。
スタンバイ (ACPI Suspend to RAM:Disabled)		キーボードやマウスを操作します(誤って電源スイッチを押さないでください)。
休止状態	消灯	電源スイッチを押します。

そのほかの機能

ネットワーク機能を使う

本機のメインボードには、ネットワーク機能が搭載されています。ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、ネットワークケーブルやハブ(サーバー)などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためにはプロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。



制限

NetWareサーバーを利用している場合や NetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・ 切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・ 再起動する。
- ・ 省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

おもな機能 について

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、Wakeup On LANやリモートブートなどの機能を使用できます。

Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。分電盤またはOAタップなどにより、コンピュータ本体の電源をいったん切断して再度供給した場合は正常に動作しない場合があります。Wakeup ON LANの詳細な使用法はネットワーク管理者の指示に従ってください。

リモートブート

リモートブートを使用すると、コンピュータ側のHDDにOSがインストールされていなくても、ネットワークを介して、サーバー上からOSをインストールすることができます。

リモートブートを行う場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

■ パラレルコネクタを使う

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.92「Advancedメニュー画面」

■ シリアルコネクタを使う

本機背面のシリアルコネクタには、シリアルマウスやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

 p.92「Advancedメニュー画面」

USBコネクタを使う

本機には、USB2.0に対応したUSBコネクタが前面に2個、背面に2個用意されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。4個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用してもかまいません。

転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コントローラに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

接続と取り外し

USB機器の接続、取り外しは電源が入っている状態で行えます。接続する周辺機器によっては、デバイスドライバが必要です。

また、USB機器の接続を行った際に、タスクバーに次のようなアイコンが表示された場合は、取り外しを行う前にWindows上で終了処理が必要です。

詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをお読みください。



< Windows 2000の場合 >



< Windows XPの場合 >

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウイルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」が添付されています。購入時には、「Norton AntiVirus2002」はインストールされていないのでインストールを行ってください。

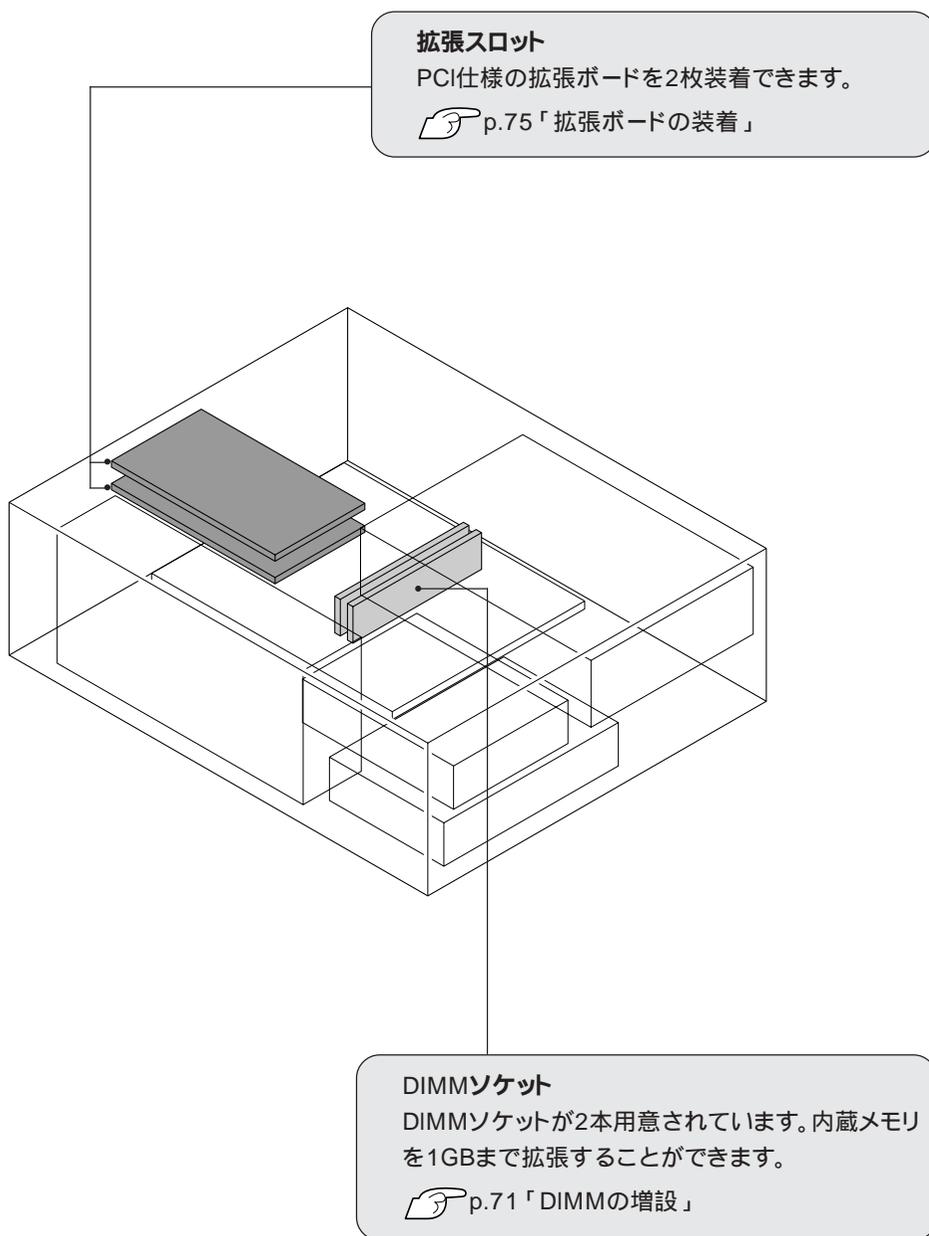
 『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』

システムの拡張

コンピュータにDIMMや拡張ボードを装着して、機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機は、DIMMや拡張ボードを増設・交換して機能を拡張することができます。
購入時のシステム構成により、実際に拡張できるDIMMや拡張ボードの数は異なります。



作業時の注意

コンピュータ内部にDIMMや拡張ボードを装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外しは、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

拡張ボードやDIMMの取り付け・取り外しを行うときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や拡張ボードに添付のマニュアルの指示に従って、正しく装着してください。
本機および接続している周辺機器の電源は必ず切ってください。
本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
作業直前には、金属のものに触れるなどして、静電気を逃がしてから作業を行ってください。
DIMM、拡張ボードの端子部やコネクタ部に触れないでください。

本体カバーの取り外し・取り付け



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

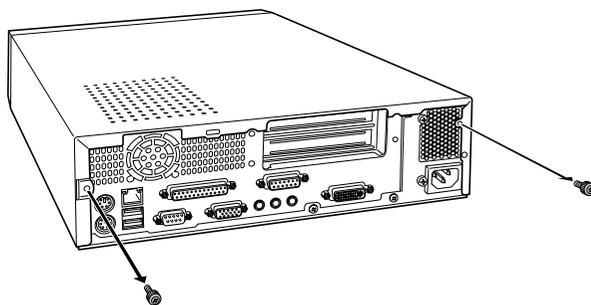
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部にDIMMや拡張ボードを装着する場合は、本体カバーを外す必要があります。

本体カバーは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。作業は、本機を横置きにして行います。

取り外し

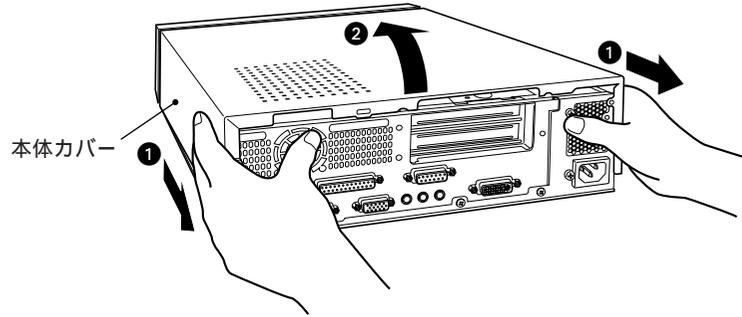
- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本機背面のネジ(2本)を外します。



4

本体カバーを取り外します。

- ① 本体背面を親指で支え、本体カバーを背面側に1cmほどスライドさせます。
- ② 本体カバーを矢印のとおりに持ち上げ、外します。

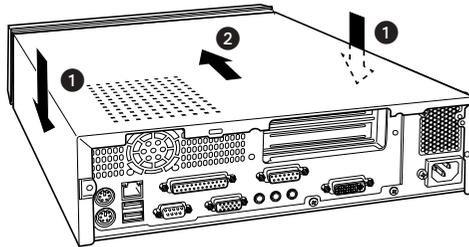


取り付け

1

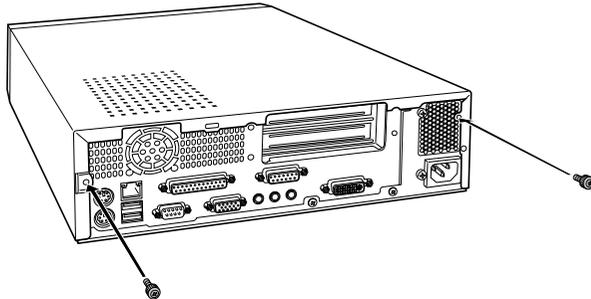
本体カバーを取り付けます。

- ① 本体カバーを本機側面の両側にはめ込みます。
- ② 本体カバーを前面側にスライドさせます。



2

ネジ(2本)で本体カバーを固定します。



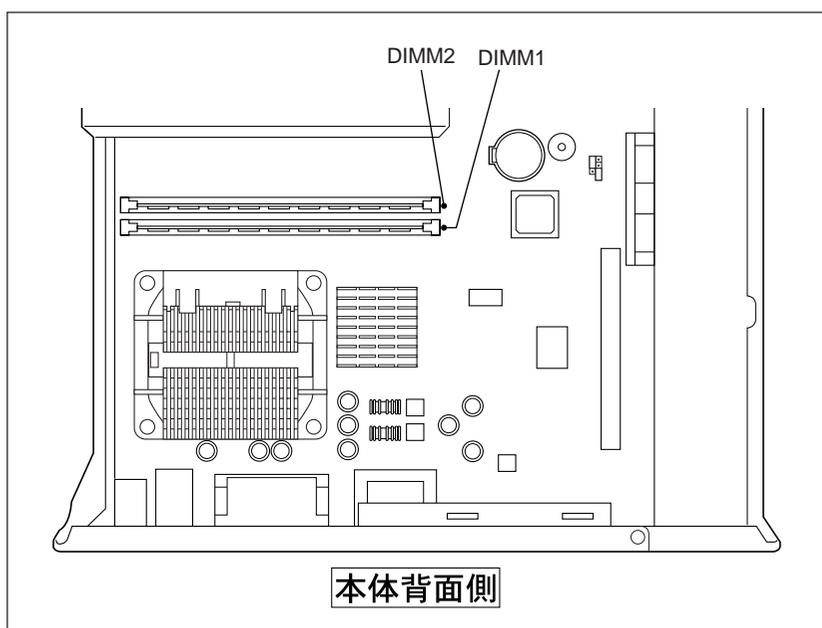
DIMMの増設

本機で使用可能なDIMMの仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

DIMMの仕様

本機には、2つのDIMMソケットが用意されており、DIMMを交換・増設することにより最大1GBまで拡張できます。

DIMMはDIMM2ソケットから取り付けます。購入時には、DIMM2ソケットにあらかじめDIMMが取り付けられています(容量は、購入時のシステム構成により異なります)。



本機で使用可能なDIMMの仕様は次のとおりです。下記の仕様と一致するDIMMを当社のオプションリストより選択してください。

PC2100 DIMM(DDR266 SDRAM使用、184ピン)

メモリ容量 128MB、256MB、512MB

Non ECC

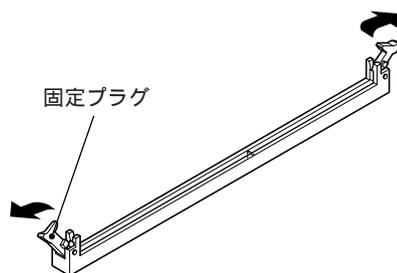
DIMMの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.67「作業時の注意」を必ずお読みください。

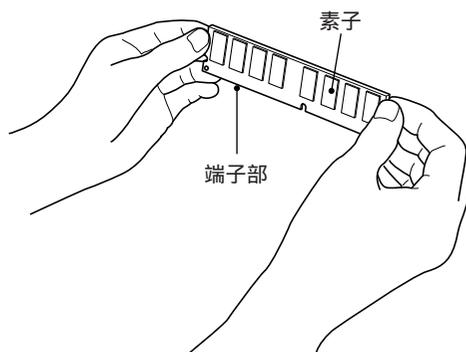
作業は、コンピュータを横置きに行います。DIMMの取り付け方法は次のとおりです。

取り付け

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.68「本体カバーの取り外し」
- 4 拡張ボードが作業の妨げとなる場合は取り外します。
 p.80「拡張ボードの外し方」
- 5 DIMMソケットの固定プラグを開きます。

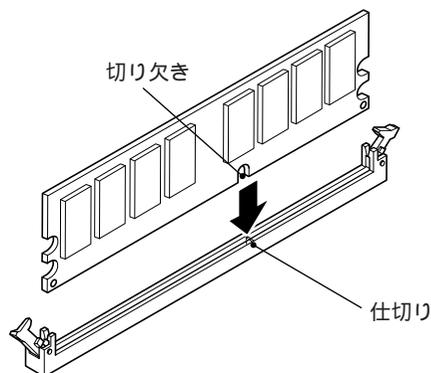


- 6 DIMMを静電気防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。



7 DIMMソケットにDIMMを差し込みます。

- ① DIMMの切り欠きをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



8 手順4で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。

 p.76「拡張ボードの取り付け・取り外し」

9 本体カバーを取り付けます。

 p.70「本体カバーの取り付け」

10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

11 メモリ容量を確認します。

- ① コンピュータの電源を入れたら **[Delete]** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.83「BIOS Setupユーティリティの操作」

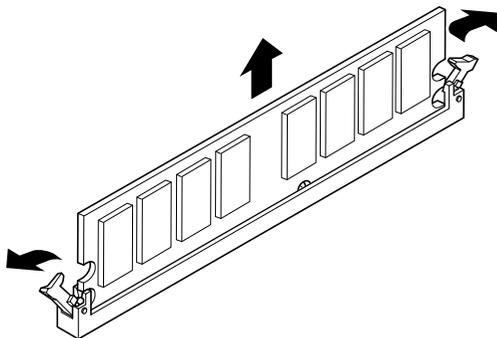
- ② 「Main」メニュー画面の「Installed Memory」に表示されている総メモリ容量を確認します。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

DIMMの外し方

1

DIMMの両端を固定している固定プラグを開き、静かに取り外します。



2

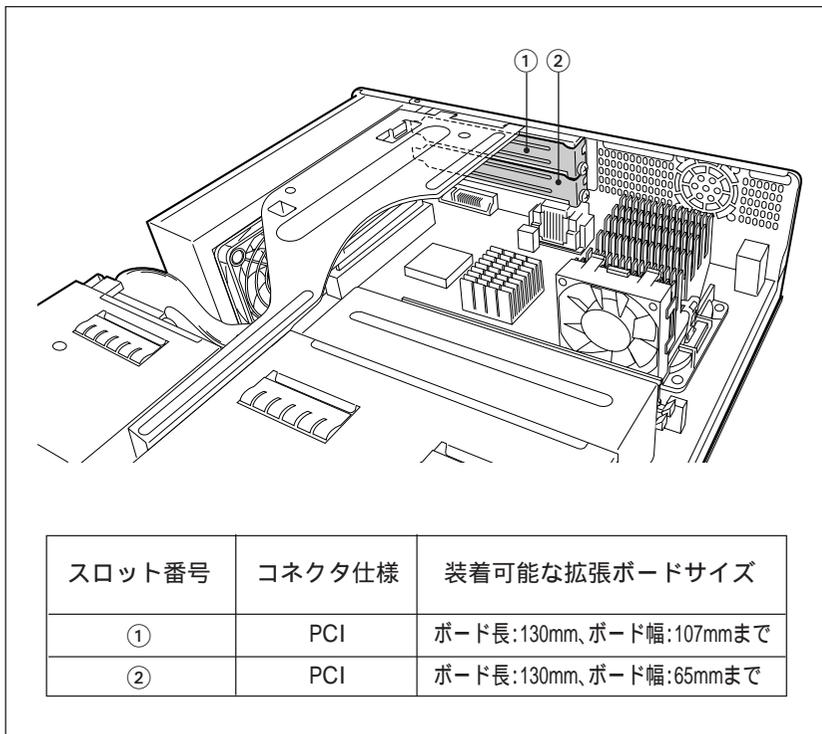
取り外したDIMMは、静電気防止袋に入れて大切に保管しておいてください。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と拡張ボードの取り付け方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には、拡張スロットが2つあります。拡張スロットの仕様は、次のとおりです。



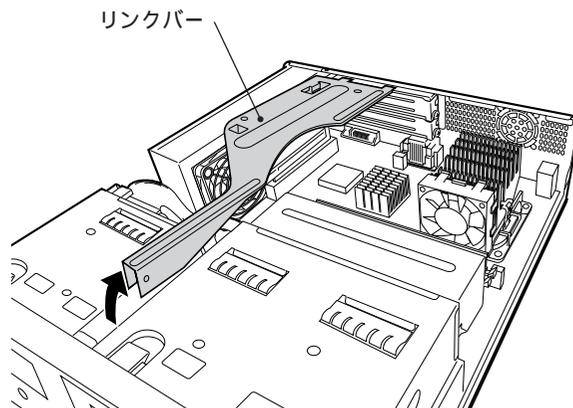
拡張ボードの取り付け・取り外し

作業を始める前にp.67「作業時の注意」と「拡張ボードに添付のマニュアル」を必ずお読みください。

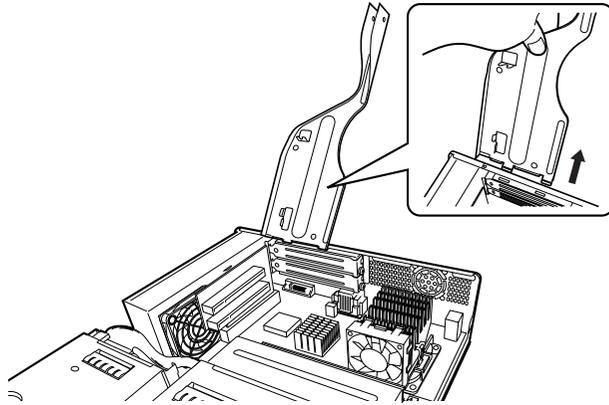
作業は、コンピュータを横置きに行います。

拡張ボードの取り付け方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータ本体の電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上放置します。
- 2 本体背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
- 3 本体カバーを取り外します。
 p.68「本体カバーの取り外し」
- 4 リンクバーを取り外します。
 - ① リンクバーをドライブベイ側から持ち上げます。このとき周辺の部品やケースの角などで手を切らないように気を付けてください。

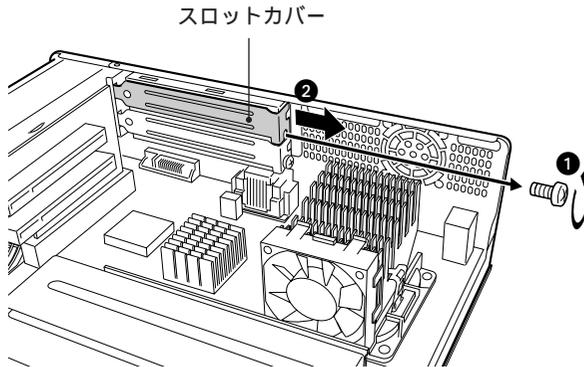


- ② リンクバーを背面側へ持ち上げ取り外します。



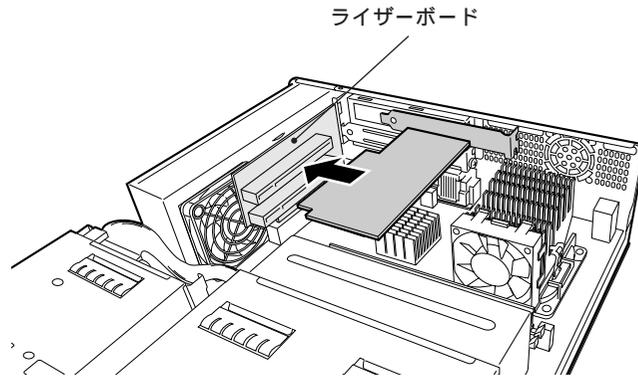
5 スロットカバーを取り外します。

- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
 - ② スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。
- 外したスロットカバーは、大切に保管しておいてください。

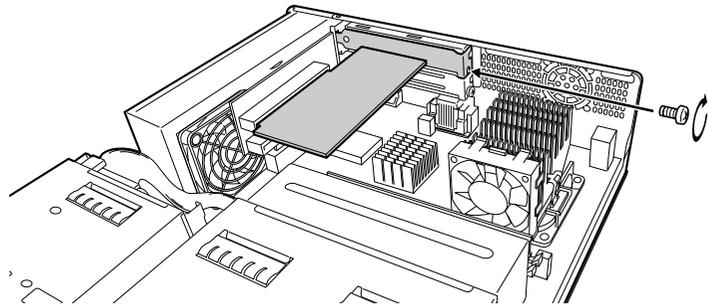


6 拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、反対側からライザーボードを固定するように手でささえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

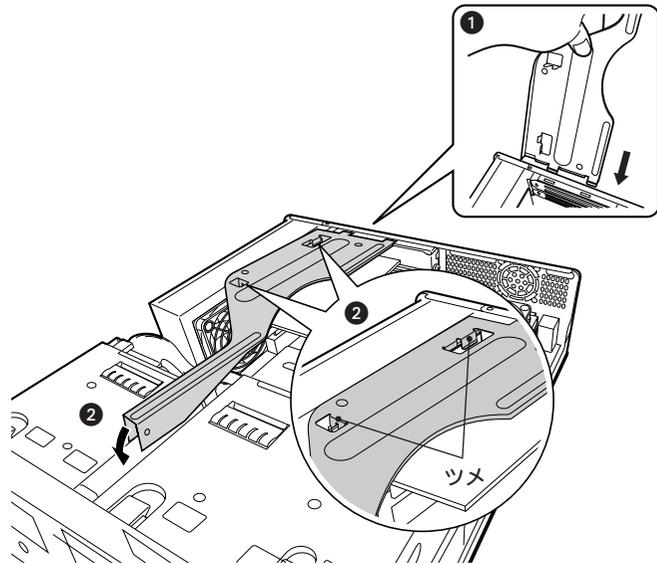


7 拡張ボードをネジで固定します。



8 リンクバーを取り付けます。

- ① リンクバーを背面側のツメに合わせます。
- ② リンクバーを倒しながら、2つのツメがライザーボードを挟んでいることを確認して、リンクバーを押し込みます。



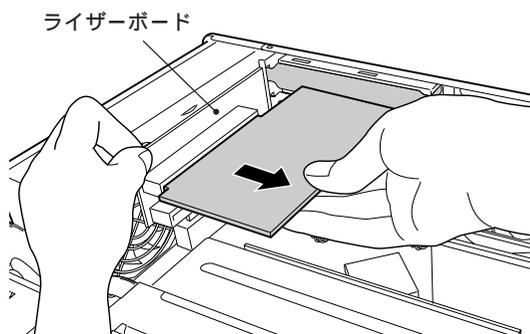
9 本体カバーを取り付けます。

 p.70「本体カバーの取り付け」

10 コンピュータを使用できるように、本体背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

拡張ボード
の外し方

- 1 拡張ボードを固定しているネジを外します。
- 2 ライザーボードを手で固定しながら、拡張ボードをゆっくり引き抜きます。



- 3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSの設定を
始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。

BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合
パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうなどの現象が頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.136「リチウム電池の交換」



制限

BIOS Setupユーティリティで設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値（初期値）と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

 p.95「BIOSの設定値」

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」〔初期値に戻す〕を実行してください。

 p.86「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

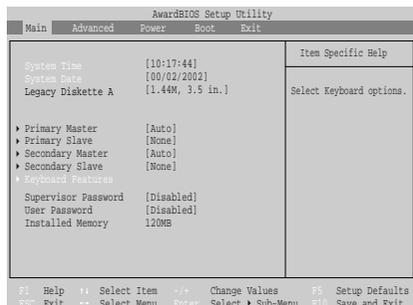
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **[Delete]** を押します。

Press to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **[Delete]** を押さないとWindowsが起動します。



3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動してMainメニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

[F1] を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

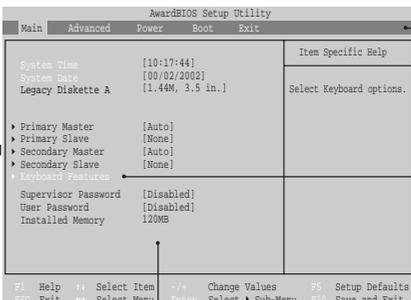
BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。操作中に画面の表示が遅いときがありますが、不具合ではありません。操作は、次の順番で行います。

- ① 「処理メニュー」を選択
- ② 「設定項目」を選択
- ③ 「設定値」を選択

詳しい操作方法は、次のとおりです。各設定項目の説明は、p.88をご覧ください。

<メニュー画面>

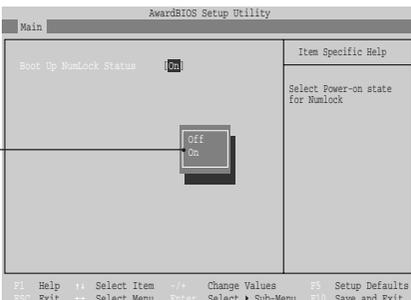


① 「処理メニュー」を選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Mainメニュー画面」が表示されています。

② 「設定項目」を選択
↑ ↓ で変更します。

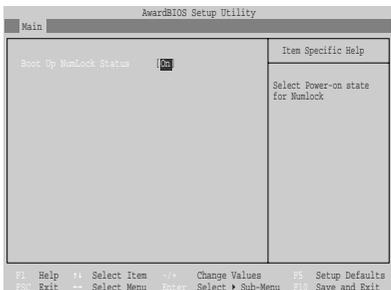
③ 「設定値」を選択
黒字表示されていると、設定変更可能です。
+ / - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

<選択ウィンドウ>
選択ウィンドウ内の設定値を
↑ ↓ で変更し、← で設定します。



▶ マークの付いている設定項目を選択して ← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと<メニュー画面>に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
 ,  + 	ヘルプを表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「EXIT」メニュー画面を表示します。 ・サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ・選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ・設定値を選択します。
	<p>「Load Setup Defaults」を表示します。全設定項目の値を、初期値に変更できます。</p> <p> p.86「設定値をもとに戻すには」</p>
	<p>「Exit & Save Changes」を表示します。変更した設定値を保存して終了できます。</p> <p> p.87「BIOS Setupユーティリティの終了」</p>
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

設定値をもとに戻すには

BIOS Setupユーティリティの設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup
Defaults
(初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティのすべての設定値を、BIOSの初期値に戻します。

- 1 を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]
- 2 BIOSの設定を初期値に戻す場合は、[Yes] を選択して を押します。

Discard
Changes
(前回保存した
設定値に戻す)

変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup Confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]
- 2 BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、[Yes] を選択して を押します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次の2通りの方法があります。

Exit & Save
Changes
(変更した内容を
保存し、終了する)

1

F10 を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存して終了する場合は **[Yes]** を選択し、**[←]** を押します。

Exit & Discard
Changes
(変更した内容を
保存せずに、終了する)

1

「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]

2

変更した設定値を保存せずに終了する場合は **[Yes]** を選択し、**[←]** を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面 : 日付、時間、パスワードなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面 : I/O関係の動作設定などを行います。
- Powerメニュー画面 : パワーマネジメント(省電力)に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面 : システムを起動するドライブの順番設定を行います。
- Exitメニュー画面 : BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

■ は初期値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。 None : FDD未接続 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細 項目は、選択する ドライブにより 異なります。	Type	IDE装置の仕様を設定します。 IDE装置の仕様を設定します。通常は「 Auto 」を指定します。「 Auto 」で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には「 User Type HDD 」などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : 以降のHDDに関する仕様を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「 Cylinders 」, 「 Head 」, 「 Sector 」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。 Disabled : 複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors : 転送セクタを設定します。 Maximum : HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期値「 Disabled 」のまま使用します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4/ 5 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
Keyboard Features		キーボードに関する設定を行います。
	Boot Up NumLock Status (起動時の NumLock の設定)	起動時の NumLock の状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。
Supervisor Password User Password		コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。初期値は「 Disabled 」です。F9「 Passwordの設定 」
*Installed Memory		メモリ容量を自動的に表示します。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができません。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は「Mainメニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled		
3	Supervisor Password	Disabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled		

○: パスワード要求あり ×: パスワード要求なし

*1: BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。

*2: 次の項目を指します。

「Mainメニュー画面」- 「System Time」, 「System Date」, 「User Password」

「Exitメニュー画面」- 「Exit Saving Changes」, 「Exit Discarding Changes」

パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
 「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。
 同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。

Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変わります。



制限

登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、CMOS RAMを初期化することでパスワードをクリアすることができます。ただし、CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は、すべてクリアされます。

 p.139「CMOS RAMの初期化」

パスワードの削除

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Speed	コンピュータに搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
*CPU Frequency Multiple	CPUベースクロックの倍率を表示します。
*CPU External Frequency	CPUベースクロックを表示します。
I/O Device Configuration	周辺デバイスのアドレス設定を行います。
Floppy Disk Access Control	FDのアクセス方法を設定します。この設定はBIOSを使用しないFormatコマンドなどでは機能しません。 R/W : 読み込み/書き込み可能 Read Only : 読み込みのみ可能
Onboard Serial Port 1 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPPモードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します ECP+EPP : EPP+ECPモードに設定します。
ECP DMA Select (パラレルポートのDMA設定)	パラレルポートのDMAチャンネルを設定します。動作モードにNormal、EPPを選択した場合は、表示されません。 1 : DMAチャンネル1を使用します。 3 : DMAチャンネル3を使用します。
Onboard AC97 Audio Controller (オーディオ機器の設定)	メインボード上のオーディオ機能を使用するかどうかを設定します。サウンドボード使用時は、[Disabled]に設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Onboard MIDI I/O (MIDIの設定)	メインボードのMIDIで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 330H-331H 300H-301H : 設定したアドレスを使用します。
Onboard MIDI IRQ (MIDI IRQ信号の設定)	MIDIで使用するアドレスを設定すると表示されます。メインボードのMIDIで使用するIRQ信号を設定します。 3 4 5 7 9 10 11 12 14 15
Onboard Game Port (ゲームポートの設定)	メインボードのゲームポートで使用するアドレスを設定します。 Disabled : 使用しません。 200H-207H 208H-20FH : 設定したアドレスを使用します。

PCI Configuration	メインボード上のデバイスに関する設定をします。
USB 1.1 Controllers	初期値 [3 Controllers] のまま使用します。
USB 2.0 Controller	初期値 [Enabled] のまま使用します。
Onboard LAN Controller	ネットワーク機能の有効/無効を設定します。 Disabled : ネットワーク機能を無効にします。 Enabled : ネットワーク機能を有効にします。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled : リモートブート機能を無効にします。 Enabled : リモートブート機能を有効にします。

Powerメニュー画面

ACPI Suspend to RAM	スタンバイモードをSuspend to RAMで行うかを設定します。 Disabled : Suspend to RAMで行いません。 Enabled : Suspend to RAMで行います。
Power Up Control(起動方法の設定)	起動する方法や条件を設定します。
AC Power Loss Restart (再起動時の電源の設定)	電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Disabled : AC電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Enabled : 電源切断時に、AC電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Previous State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後にAC電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、AC電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
Power Up on PCI Card (LANからの起動設定)	電源切断時に、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Automatic Power Up (自動電源投入の起動設定)	設定した日付と時間に応じて、自動的に起動します。ただし、分電盤やOAタップなどにより、本機の電源供給をいったん切断して再度供給した場合は、正常に動作しない場合があります。 Disabled : 設定しません。 Everyday : 設定した時間に、毎日起動します。 By Date : 設定した日付と時間に、起動します。
Date of Month Alarm	「 Automatic Power Up 」項目で「 By Date 」に設定すると、表示されます。起動したい日付を入力します。
Time(hh:mm:ss)Alarm	「 Automatic Power Up 」項目で「 By Date 」または「 Everyday 」に設定すると表示されます。起動したい時間を入力します。

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、起動するドライブの順番を設定します。

初期設定は、[1.Removable Device][2.ATAPI CD-ROM][3.IDE Hard Drive]
[4.Other Boot Device]です。

「Other Boot Device」-「Realtek Boot Agent」は、次の項目を「Enabled」に設定して再起動すると表示されるようになります。

- ・「Advancedメニュー」-「PCI Configuration」-「Onboard LAN Boot ROM」
ドライブを選択して を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。
ドライブを選択して を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/Legacy Floppy/USB FDD
2. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続している5.25型ドライブの型番
3. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled/接続しているHDDの型番
4. Other Boot Device	SCSI装置やネットワーク機能から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device/Realtek Boot Agent
Interrupt Mode (割り込みモードの設定)	初期値 [APIC]のまま使用します。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
Primary				
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Secondary				
Type				
Translation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
ULTRA DMA Mode				
Keyboard Features				
Boot Up NumLock Status	Off	On	Off	On

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容		
I/O Device Configuration						
Floppy Disk Access	R/W	Read Only		R/W	Read Only	
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4	3F8H/IRQ4	2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4
	2E8H/IRQ10	Disabled		2E8H/IRQ10	Disabled	
Onboard Parallel Port	Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5	Disabled	378H/IRQ7	278H/IRQ5
Parallel Port Mode	Normal EPP ECP ECP+EPP			Normal EPP ECP ECP+EPP		
ECP DMA Select	1		3	1		3
Onboard AC97 Audio Controller	Disabled		Auto	Disabled		Auto
Onboard MIDI I/O	Disabled	330H-331H	300H-301H	Disabled	330H-331H	300H-301H
Onboard MIDI IRQ	3	4	5	7	9	10
	11	12	14	15		
Onboard Game Port	Disabled	200H-207H	208H-20FH	Disabled	200H-207H	208H-20FH
PCI Configuration						
Onboard LAN Controller	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled
Onboard LAN Boot ROM	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled

Power メニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容		
ACPI Suspend to RAM	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled
Power Up Control						
AC Power Loss Restart	Disabled	Enabled	Previous State	Disabled	Enabled	Previous State
Power Up on PCI Card	Disabled		Enabled	Disabled		Enabled
Automatic Power Up	Disabled	Everyday	By Date	Disabled	Everyday	By Date

Boot メニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容		
() Removable Device	Disabled	Legacy Floppy	USB Floppy	Disabled	Legacy Floppy	USB Floppy
() ATAPI CD-ROM	Disabled ()			Disabled ()		
() IDE Hard Drive	Disabled ()			Disabled ()		
() Other Boot Device	Disabled	SCSI Boot Device	Realtek Boot Agent	Disabled	SCSI Boot Device	Realtek Boot Agent

ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Norton AntiVirus2002で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。この場合、再度更新権を購入(有償)していただく必要があります。あらかじめご了承ください。

 『Norton AntiVirus2002をご使用前に』

バックアップディスクを作成していない場合は、必ず作成しておいてください。再インストールすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。

 p.24「バックアップディスクの作成」

HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsが登録されているCD-ROMです。

Windows XPは、Disc1とDisc2の2枚組になっています。

ドライバCD

各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2002が登録されているCD-ROMです。

マウスドライバCD

マウスドライバが登録されているCD-ROMです。

バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD

Windowsのセットアップ終了後に作成したFDです。作成していない場合は、必ず作成してください。

 p.24「バックアップディスクの作成」

そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。



インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

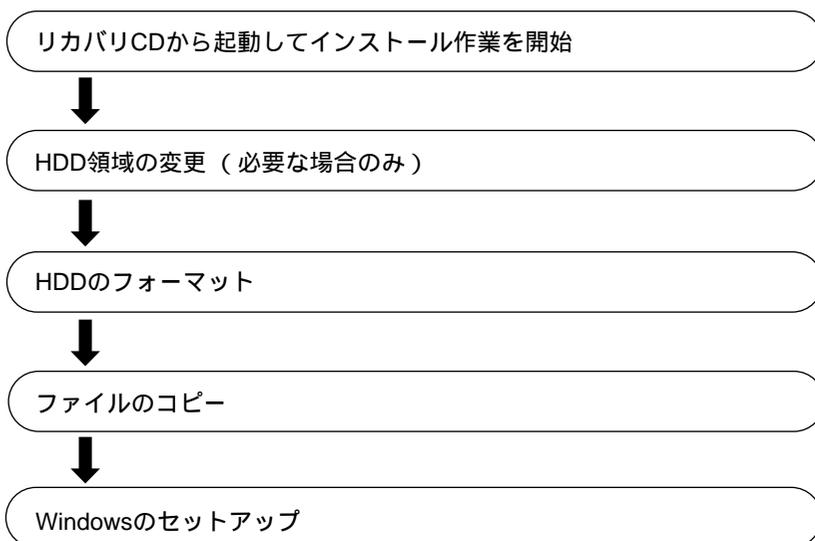
購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。

ドライブ名	<p>本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。 CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。</p> <p>Aドライブ:FDD Cドライブ:HDD Dドライブ:CD-ROMドライブ</p>
入力文字	<p>インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。</p>
管理者権限でログイン	<p>デバイスドライバのインストール作業はコンピュータの管理者(Administrator)でログインして行ってください。</p>
Windows CD-ROMを要求されたら	<p>デバイスドライバ類のインストール時に「WindowsCD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、「リカバリCD(Windows XPではリカバリCD Disc1)」をセットしてください。</p>
メーカー情報	<p>Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>Windows 2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」 Windows XP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システムのプロパティ」</p>
各種設定の確認	<p>ネットワークやモデム、インターネットなどを使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。</p>

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更

HDDを分割して使用したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマットを行いますが、残りの領域（未設定領域）はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

 p.112「領域の作成」

Windows 2000 インストールモデルの場合 Windows 2000のインストールは、次の手順で行います。

Windows 2000
インストール
モデルの場合

- 1 「リカバリCD」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順3の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
- 3 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、を押します。
HDD領域を変更する場合はを押して、下記の手順①～⑥を行います。

< HDD領域を変更する場合 >
 - ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。
 - ② 「MB ディスク × × から次のパーティションを削除します。…」と表示されたらを押します。
 - ③ 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「MB ディスク × × に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、「C: 新規(未フォーマット)」を選択してを押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域作成を行ってください。
 p.112「領域の作成」
 - ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してを押します。
手順8に移ります。

- 4 「別のオペレーティングシステムがあるパーティションに...」と表示された場合は、を押します。
- 5 「...にWindows 2000をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 6 「警告:このドライブをフォーマットすると...」と表示されたら、を押します。
- 7 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると自動的にWindowsが再起動します。
- 8 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindows 2000のインストールが中止されます。
- 9 「Windows 2000 Professionalセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
 - ソフトウェアの個人用設定
 - ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワード
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
 - コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 10 「Windowsへログオン」画面が表示されます。設定したAdministratorのパスワードを入力します。
手順9でパスワードを設定しなかった場合は、そのままをクリックします。
- 11 Windows 2000のデスクトップが表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows 2000のインストールは終了です。

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc1」をCD-ROMドライブにセットします。
 - 2 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順3の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
 - 3 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。
通常は「C:」を選択して、を押します。
HDD領域を変更する場合はを押して、下記の手順①～⑥を行います。
- < HDD領域を変更する場合 >
- ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。
 - ② 「 MB ディスク × × から次のパーティションを削除します。…」と表示されたらを押します。
 - ③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の…」と表示されたら、 (パーティションの作成)を押します。
 - ④ 「 MB ディスク × × に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、を押します。
 - ⑤ 「次の一覧にはコンピュータ上の…」と表示されたら、「C : パーティション1(未フォーマット)」を選択してを押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
 p.112「領域の作成」
 - ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してを押します。
手順7に移ります。

- 4 「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに...」と表示された場合は、を押します。
- 5 「...にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択してを押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 6 「警告:このドライブをフォーマットすると...」と表示されたら、を押します。
- 7 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にWindowsが再起動します。
- 8 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。
- 9 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。
- ソフトウェアの個人用設定
ここでは「名前」を必ず入力してください。
コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
コンピュータ名とAdministratorのパスワード
(Windows XP Professional)
コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定
コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
ネットワーク管理者の指示に従って必要事項を入力します。

- 10 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 11 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 12 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下のをクリックします。
- 13 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下にある (省略) をクリックします。
- 14 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けてをクリックします。
- 15 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力してをクリックします。
- 16 「設定が完了しました」と表示されたら、をクリックします。
- 17 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、CD-ROMを取り出します。これでWindows XPのインストールは終了です。

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。

インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して「インストール開始」をクリックします。インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 「確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。
- 6 「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり「OK」をクリックします。
- 7 「Windowsの再起動」画面が表示されたら「はい」をクリックします。
- 8 Windowsが再起動します。Windows 2000インストールモデルの場合はこれでデバイスドライバのインストールは終了です。

Windows XPインストールモデルの場合は、以降の手順が必要です。

Windows 2000インストールモデルの場合は必要ありません。

- 9 [スタート]-「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 10 表示された項目から[.NET Framework]を選択して、[開始]をクリック
- 11 「セットアップ」画面が表示されたら[今すぐインストール]をクリックします。
「マイコンピュータ」画面の下に隠れている場合があります。
- 12 「セットアップはコンピュータが再起動された後に再開します。」と表示されたら、[今すぐ再起動]をクリックします。
- 13 Window XP再起動後に「セットアップ完了」画面が表示されます。[完了]をクリックします。これで、デバイスドライバのインストールは終了です。

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「マウスドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。
正しくセットされると自動的に「設定言語の選択」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
自動的に「設定言語の選択」画面が表示されない場合は、[スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「名前」に次のとおり入力し、[OK] をクリックします。
D:¥SETUP
- 2 「インストール先の選択」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「プログラムフォルダの選択」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 4 「InstallShield Wizardの完了」と表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックが付いた状態で [完了] をクリックします。
- 5 Windowsが再起動すると「新しいホイールマウスがPS/2ポート上で検出されました。…」と表示されます。[はい] をクリックしてマウスの設定を行います。
これでマウスドライバのインストールは終了です。

Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」をCD-ROMドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「CD-ROM(Windows XPはCDドライブ)」を右クリックして「自動再生」を選択します。
- 2 表示された項目から、「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して「開始」をクリックします。
- 3 「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 4 「インストール先の選択」画面が表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 5 「情報」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。

Norton AntiVirus2002のインストール

Norton AntiVirus2002をインストールします。本機に添付の『Norton AntiVirus2002をご使用の前に』をご覧ください。

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windowsの「ディスクの管理」は、次の場所にあります。

Windows 2000 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理*」

Windows XP : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理*」

* 画面左側の「記憶域」の下にあります。

ユーザーズ マニュアルの インストール

『ユーザーズマニュアル(本書)』のPDFファイルをインストールします。

インストールすると、デスクトップ上で『ユーザーズマニュアル(本書)』の内容を見ることができます。

インストール手順は、次のとおりです。

- 1 「マニュアルディスク1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して [OK] をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

SBSIの
インストール
(Windows XP
のみ)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。
インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:¥SBSI¥SETUP¥SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoftインタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認したら右上にある☒をクリックします。
- 10 [スタート]からWindowsを再起動します。Windowsが再起動したら、ステップバイステップインタラクティブのインストールは終了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。



参考

インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

FAXモデムボードを使用する場合 : FAXモデムドライバ

SCSIボード・SCSI機器を使用する場合 : SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

USB対応機器を使用する場合 : 機器に添付のドライバ

プリンタを使用する場合 : プリンタに添付のドライバ

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



ホームページのサポート情報について

弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから、もう一度入れ直す場合には、20秒程度の間隔を開けてください。20秒以内に電源を入れ直すと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.16「電源コードの接続」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処

現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit & Save Changes」を実行して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

 p.83「BIOS Setupユーティリティの操作」

[F1] を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

ACPI Suspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しなくなります。この場合は、本機の電源を切ってからもう一度入れ直してください。

起動時にエラーメッセージが表示される場合には、メッセージ内容を確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアやソフトウェアに問題が発生している可能性があります。問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

 p.131「警告メッセージが表示されたら」

ピープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストで異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

 p.86「設定値をもとに戻すには」

BIOSを初期値に戻しても問題が解消されない場合は、CMOS RAMを初期化してみてください。

 p.139「CMOS RAMの初期化」

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

確認と対処

「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.90「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.34「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.139「CMOS RAMの初期化」

現象

起動時に次のようなメッセージが表示されてWindowsが起動しない。

- ・ DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- ・ Invalid system disk Replace the disk, and then press any key
- ・ Operating system not found

確認と対処

システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてください。

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

 +  +  を押してリセットします。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを押して電源を切ってから再起動してください。

電源スイッチを押しても電源が切れない場合は、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。

 p.29「電源の切り方」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.136「リチウム電池の交換」

省電力機能に関する不具合

現象 省電力モードが正常に働かない

確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。次の作業を行い省電力機能が正常に働くか確認してください。

- ・ アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行う。
- ・ ACPI Suspend to RAMを「Enabled」にしてスタンバイを実行している場合は、「Disabled」にして実行する。

現象 省電力モードから復帰できない。

確認と対処 「ACPI Suspend to RAM」を「Enabled」にして、スタンバイを実行しているときや休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では省電力モードから復帰しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。

 p.61「復帰方法」

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。

キーボードの不具合

現象 数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処 数値キーは  の状態により機能が変わります。 キーを押してオンの状態にします。

 p.34「キーボードを使う」

現象 どのキーを押しても応答がない。

確認と対処 キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.14「キーボードの接続」

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.29「電源の切り方」

現象 キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処 直接入力モードで日本語を入力することはできません。

Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。次のキーボードが選択されているか確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

確認方法は、次のとおりです。

Windows 2000の場合 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「キーボード」アイコンをダブルクリック

Windows XPの場合 : [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「プリンタとその他のハードウェア」 - 「キーボード」をクリック

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。マウスの接続は、電源を入れる前に行ってください。

 p.15「マウスの接続」

キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.29「電源の切り方」

現象

Windows上やアプリケーションソフトでマウスポインタが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.15「マウスの接続」

MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、専用のマウスドライバをインストールする必要があります。本機にはMS-DOS用のマウスドライバは添付されていません。

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.134「マウスのお手入れ」

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイの接続コードが正しく接続されているか確認します。本機で使用できるディスプレイの接続コネクタは次のとおりです。

アナログ (VGA) 方式ディスプレイの場合 : VGAコネクタ

デジタル (DVI-D) 方式ディスプレイの場合 : DVI-Dコネクタ

 p.12「ディスプレイの接続」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

ピープ音が鳴った場合は、起動時の診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してみてください。

 p.55「省電力機能を使う」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動し直してみてください。

Windows 2000をセーフモードで起動する

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows 2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置したあと、電源を入れます。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **F8** を押します。押さない場合は通常のモードでWindowsが起動します。
Windows 2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください
- 3 「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←**を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

Windows XPをセーフモードで起動する

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、**F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、「セーフモード」を選択し、**←**を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

FDDの不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性あります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.39「FDDを使う」

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」-「Mainメニュー画面」-「Legacy Diskette A」が「1.44 M, 3.5 in.」となっているか確認してください。

現象 FDに書き込みできない。

確認と対処 ライトプロテクトされていないか確認します。
 p.43「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

現象 FDDから異常な音がする。

確認と対処 販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

HDDの不具合

現象 それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。

確認と対処 HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。
 p.88「Mainメニュー画面」

現象 特定のファイルのみ読み書きできなくなった。

確認と対処 ファイルのデータが破損しているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。

上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、ソフトウェアの再インストールを実行してください。

 p.97「ソフトウェアの再インストール」

実行しても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

現象 HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処 起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。
 p.94「Bootメニュー画面」

CD-ROMドライブの不具合

現象

セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処

CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。

CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがいないか確認してください。

別のCD-ROMにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。

特殊なフォーマット形式のCD-ROMメディアの場合、アクセスできない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

セットしたCDが書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

CDをセットすると画面が開いてしまう。

確認と対処

セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、をクリックして、一度画面を閉じます。その後、「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、「開く」を選択します。

現象

音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処

内蔵スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調整してください。

 p.53「サウンド機能を使う」

外部スピーカを使用している場合は、本機背面のライン出力コネクタに正しく接続しているか、またボリュームの調節が適切か確認します。

CD-ROMドライブのオーディオコネクタと、メインボードのCD-INコネクタを、CDオーディオケーブルで接続しているか確認します。

 p.142「コンピュータ内部のケーブル接続」

アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、もしくは、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要なシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Main」メニュー画面 - 「Installed Memory」で総メモリ容量を確認してください。

 p.83「BIOS Setupユーティリティの操作」

DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

インストール時の不具合

現象 インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処 本書では、インストール手順中のCD-ROMドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。CD-ROMドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。CD-ROMドライブのドライブレターを確認してください。CD-ROMドライブのドライブレターは、「マイコンピュータ」で確認できます。

本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点はインフォメーションセンターまたはテクニカルセンターにお問い合わせください。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した機器のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいかどうか確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張ボードで重複して設定していると、コンピュータは正しく動作しないことがあります。詳細は拡張ボード、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

IRQ信号やDMAがどのように設定されているかは、[デバイスマネージャ] で確認できます。

[デバイスマネージャ]の開き方は次のとおりです。

- Windows 2000の場合
[スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」 - 「システム」 - 「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]
- Windows XPの場合
[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「システム」 - 「ハードウェア」タブ - [デバイスマネージャ]

周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張ボードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源が入っているか、印刷するための準備が整っているかを確認してください。

プリンタのコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsでは、プリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

内蔵スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのに音が聞こえない。

確認と対処

内蔵スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。音量を調節してください。

 p.28「音量の調節」

音量を調節しても音が聞こえない場合は、内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
CMOS checksum error-Defaults loaded	CMOS RAM設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してみてください。
CMOS battery failed	データ保持用の内蔵リチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してみてください。  p.136「リチウム電池の交換」
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Primary(Secondary)master(Slave)drive fails	HDDやCD-ROMドライブにエラーが見つかった場合に表示されるエラーです。このエラーが表示されたら、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。
Immediately back-up your data and replace your hard disk drive	HDDの設定をユーザー設定にしてあり、なおかつSMARTファンクションを有効にしている場合に、HDDに不具合が見つかる则表示されるエラーです。このHDDエラーが表示されたら、ただちにHDDのバックアップをとることをお勧めします。
ERROR -- Can't Write ESCD	このエラーが表示されたら、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。



付 録

お手入れ方法、リチウム電池の交換、
CMOS RAMの初期化、仕様などについて
説明します。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。



警告

小さなお子様の手が届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。

マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

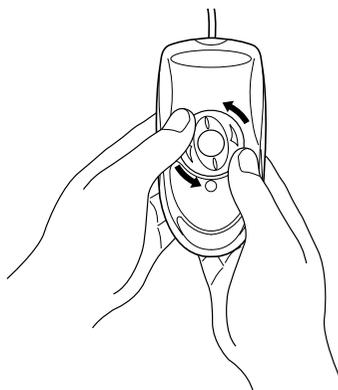
クリーニングは、本機の電源を切ったあと、マウスケーブルを本機背面から取り外した状態で行います。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



- 2 マウスボールを取り出します。
マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。
- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が何もしないのになってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

CR2032(または同等品)



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



内蔵リチウム電池の交換は、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。

不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。

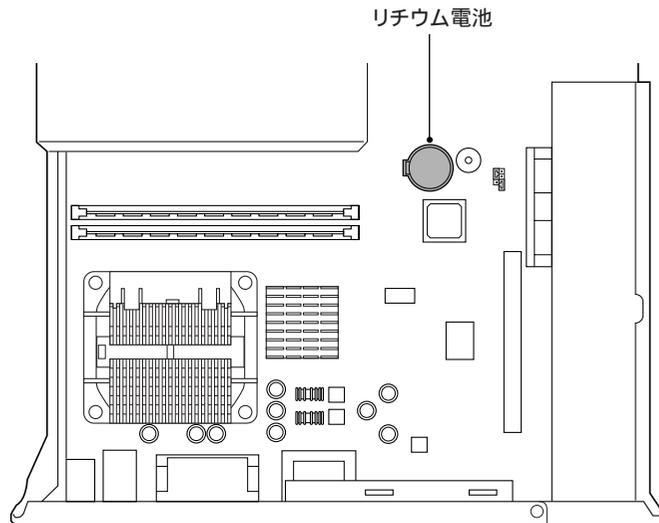


本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電気が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

作業は、本機を横置きに行います。

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上
放置します。
- 2 本体カバーを取り外します。
 p.68「本体カバーの取り外し」
- 3 リンクバーを取り外します。
 p.76「拡張ボードの取り外し・手順4」
- 4 リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

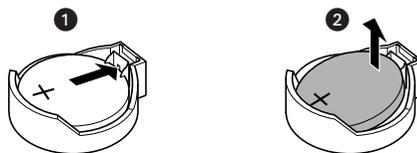


- 5 必要に応じて、作業の妨げになる拡張ボードを取り外します。
 p.80「拡張ボードの外し方」

6 リチウム電池を抜きます。

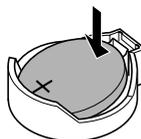
① 電池ホルダの留め金を押します。(電池ホルダの形状は、機種により異なる場合があります。)

② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



7 新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面 (+ 側) が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。正しく取り付けられると、「カチッ」と音が鳴ります。



8 手順5で拡張ボードを取り外した場合は、もとどおりに取り付け直します。

9 リンクバーを取り付けます。

 p.79「拡張ボードの取り外し・手順8」

10 本体カバーを取り付けます。

 p.70「本体カバーの取り付け」

11 コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。

12 コンピュータの電源を入れます。[Delete] を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.83「BIOS Setupユーティリティの操作」

13 [F5] を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。

14 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。

15 「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。



警告

電源コンセントに電源プラグを接続したままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



注意

CMOS RAMの初期化は、本製品の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた机の上や傾いた所など)で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



制限

CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。

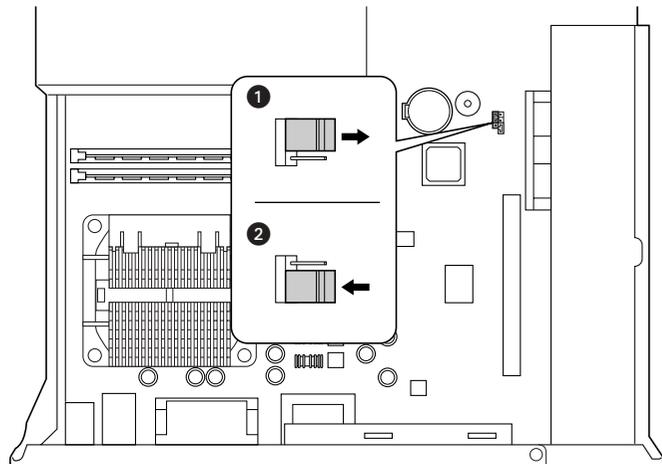
 p.95「BIOSの設定値」

本機の電源を切ってもコンセントに接続されていると微少な電気が流れています。作業を始める前に必ず電源コンセントから本機の電源プラグを外してください。

作業は、本機を横置きに行います。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、本機背面に接続しているケーブル類をすべて外します。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、内部が冷えるまで10分以上
放置します。
- 2 本体カバーを取り外します。
 p.68「本体カバーの取り外し」
- 3 リンクバーを取り外します。
 p.76「拡張ボードの取り外し・手順4」
- 4 リチウム電池を取り外します。必要に応じて拡張ボードも取り外してくだ
さい。
 p.137「リチウム電池の交換・手順4～手順6」
- 5 メインボード上のジャンプスイッチCLEAR_CMOSを次のように変更し
ます。
ジャンパクリップは、ピンセットなどを使って抜き差ししてください。その
際、メインボードに傷を付けないように注意してください。
 - ① 本体背面側から見て奥の2本のピンにジャンパクリップが差し込まれ
ています。このジャンパクリップを抜き取ります。
 - ② ジャンパクリップを本体背面側から見て手前の2本のピンに差し込
みます。



- 6 このまま5秒間以上、放置します。
- 7 ジャンプスイッチCLEAR_CMOSの設定をもとに戻します。
ジャンパクリップを本体背面側から見て奥の2本のピンに差し込み直します。
- 8 リチウム電池を取り付けます。手順4で拡張ボードを取り外した場合はもとどおりに取り付け直します。
 p.138「リチウム電池の交換・手順7～手順8」
- 9 リンクバーを取り付けます。
 p.79「拡張ボードの取り外し・手順8」
- 10 本体カバーを取り付けます。
 p.70「本体カバーの取り付け」
- 11 コンピュータを使用できるように、本機背面のケーブル類をもとどおりに接続します。
- 12 コンピュータの電源を入れます。
- 13 「CMOS checksum error-Defaults loaded」とメッセージが表示されます。
 を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.83「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 14  を押して「Load Setup Defaults(初期値に戻す)」を実行します。
- 15 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 16 「Exit」メニュー画面 - 「Exit & Save Changes」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

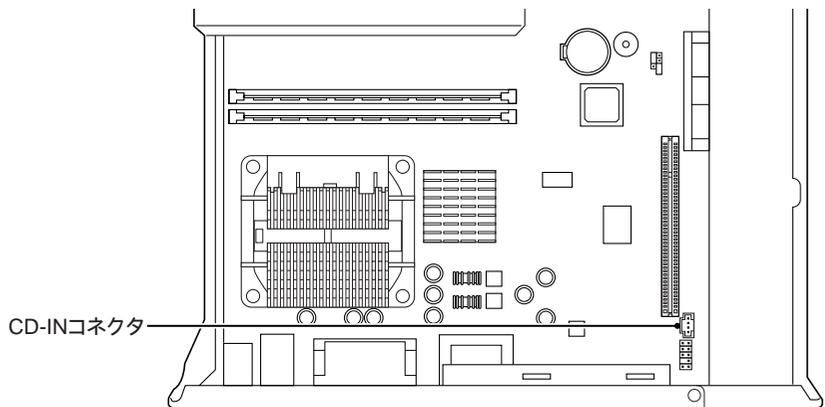
コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には本項の内容に従って正しく接続してください。



本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置
(メインボード上)

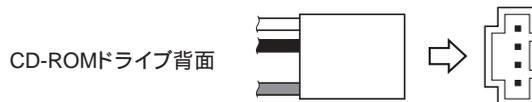


本体背面側

ケーブル接続

CD-INコネクタ

CDオーディオケーブルでCD-ROMドライブのCDオーディオコネクタと接続します。コネクタの向きに合わせて接続します。



機能仕様一覧

CPU		インテルPentium4プロセッサまたはインテルCeleronプロセッサ	
メモリ	ROM	Award BIOS	
	メインメモリ	最大1024MB(1GB)まで搭載可能	
ビデオ	コントローラ	インテル845GL Integrated	
	ビデオメモリ	メインメモリ128MB:最大32MB、メインメモリ256MB以上:最大64MB	
サウンドコントローラ		Intel845GLチップセット内蔵AC'97	
キーボード		日本語対応106コンパクトキーボード	
マウス		ホイール付きPS/2マウス	
記憶装置	内蔵FDD	3.5型FDDを1基内蔵	
	内蔵HDD	IDE HDDを1基内蔵 Ultra ATA/100対応	
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵 最大48倍速	
インタフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPP サポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)	
	VGA インタフェース	1(アナログRGB ミニD-SUB 15ピン)	
	DVI-D インタフェース	1(デジタルモニタ DVI-D 24ピン)	
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	ネットワークインタフェース	1(RJ-45 10Base-T および100Base-TX 自動認識 WOL対応)	
	サウンドインタフェース	本体前面	マイク入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1
		本体背面	ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1、ゲームポート/MIDI コネクタ×1
	USB インタフェース	本体前面	2(USB2.0対応)
本体背面		2(USB2.0対応)	
ドライブベイ	3.5 型ドライブベイ	1(FDDで使用済み)	
	5.25 型ドライブベイ	1(CD-ROMドライブで使用済み)	
	HDDドライブベイ	1(HDDで使用済み)	
外部拡張スロット		2(PCI対応スロット)	
		上段スロット ボード長:130mm、ボード幅:107mmまで装着可能	
		下段スロット ボード長:130mm、ボード幅:65mmまで装着可能	
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)	
電源容量		165W	
入力電圧		AC100V ± 10% (50/60 Hz)	
温湿度条件		温度:10 ~ 35	
		湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法(縦置き時)		本体:約88(幅)×375(奥行)×304(高さ)mm(突起部除く)	
重量		本体:約7.0Kg(本体のみ)	
消費電力		待機時消費電力約4W(最大254W)	

用語集

本書で使用している用語やコンピュータに関する基本的な用語を簡単に解説します。詳細については、市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

Accelerated Graphics Portの略で、CPUとビデオチップを接続するための拡張ポートのことです。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略で、コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたものです。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすることです。起動するとも言います。

CPU

Central Processing Unitの略で、コンピュータの処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。

DMA転送

Direct Memory Accessの略です。CPUを介さずに、周辺機器とメモリ間で直接データ転送を行います。

使用例 DMA転送により高速なデータの入出力が可能です。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のことです。複数のDMA転送を行う機器が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります

DRAM(ディーラム)

メモリの種類のことです。Dynamic Random Access Memoryの略です。

コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

DVI

DDWG(Digital Display Working Group)によって提案された、デジタルディスプレイを接続するためのインタフェースのことです。

FAT32ファイルシステム

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を32ビットに拡張したファイルシステムのことです。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます(FAT16ファイルシステムでは2GBまで)。

HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができます、それぞれドライブとして利用できます。

I/Oポート(Input/Outputポート)

CPUとデバイスの間でデータをやりとりするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺機器からCPUに対して処理を依頼するための信号のことです。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張ボードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドボードではIRQ7を使用します。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインタフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略で、コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种で、一般的に採用されている拡張バスのことです。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応など多くのメリットがあります。高速性を要求される拡張ボードに使用されます。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持しつづけます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインタフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略で、コンピュータと周辺機器間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種です。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

使用例 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

SDRAM

DRAMの一種でアクセスが速いのが特長です。最近では、DRAMの代わりにSDRAMがメインメモリに使用されています。

USB

Universal Serial Busの略で、比較的低速な機器をシリアル通信で接続するための規格のことです。USB対応の製品に接続します。

Ultra ATA/100

IDEインタフェース上において100MB/sでデータを転送できるデータ入出力方法のことです。

VGA

640×480ドット16色を表示するDOS/V機の基本的なビデオ表示機能です。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きします。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺機器の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張ボードを装着するためのスロットです。拡張ボードには、AGPバス用拡張ボード、PCIバス用拡張ボードなどがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすることや、アプリケーションなどを実行して使用できるようにすることなどを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

サーバー

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバーと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源を入れて、OSを立ち上げコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンプスイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのことです。ジャンプスイッチの設定はジャンプクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

ドライブレター

FDD、HDDやCD-ROMドライブに割り当てるアルファベットの1文字のことです。基本的にHDDが1基搭載されている場合は、「A:」がFDD、「C:」がHDD、「D:」がCD-ROMドライブに割り当てられます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理をするためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で、高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、AGPバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張ボードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能です。

この機能により、従来拡張ボード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークに接続されたコンピュータ同士で通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDや、FDに付けた名称のことです。

メッセージ

入力されたコマンドに対してコンピュータが出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのことで、主記憶とも呼びます。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 メインメモリは128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張ボードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーアカウントとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン/ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FDD)	39
2DD(FDD)	39
3.5 型FDD	6

A

ACPI Suspend to RAM	57
Adobe Acrobat Reader	5
~のインストール	111

B

BIOSの設定	81
BIOS Setupユーティリティの操作	83
BIOS Setupユーティリティの終了	87

C

CapsLock	36
CD-ROM	45
CD-ROMイジェクトホール	6
CD-ROMイジェクトボタン	6、45
CD-ROMドライブ	6、45
~の不具合	126
CD-INコネクタ	142
CMOS RAM	82
CMOS RAMの初期化	139
COAラベル	3
CPU	4

D

DIMM (メモリ)	71
~の不具合	128
DirectX 8.1	5
DVI-Dコネクタ	7、12、49

F

FD (フロッピーディスク)	39
FDD (フロッピーディスクドライブ)	39
~の不具合	124
FDDアクセスランプ	6
FDDイジェクトボタン	6

H

HDD (ハードディスクドライブ)	44
~領域の変更	102
~の不具合	125
HDDアクセスランプ	6

M

MIDIコネクタ	7、54
MS-IME	35

N

Norton AntiVirus2002	5、26、64
NTFS	44
NumLock	36

P

Passwordの設定	90
-------------------	----

S

Scroll Lock	36
Supervisor Password	90

U

USBコネクタ	6、7、64
User Password	90

V	
VGA(モニタ)コネクタ	7、12、49

W

Wakeup On LAN	62
Windows 2000	(9)
~のインストール	103
~のセットアップ	20
Windows XP	(9)
~のインストール	105
~のセットアップ	22
Windowsキー	37

50音順

あ

アイコン	(10) \ (11)
アプリケーションキー	37
アプリケーションソフトの不具合	127

い

インストール時の不具合	128
-------------------	-----

う

ウィルス	64
------------	----

お

お手入れ	134
お問い合わせ情報ラベル	3

か

解像度の変更	51
拡張ボードの装着	75
拡張ボード、周辺機器の増設に関する不具合 ...	129

拡張スロットの仕様	75
管理者パスワード	90
外部オーディオ機器	53

き

キーボード	34
~の接続	14
~の不具合	120
キーボードコネクタ	7、14
キーロック表示ランプ	34、36
機能キー	34
機能仕様一覧	143
休止状態	55
強制取り出し (CD-ROM)	48

く

クリック	18、38
------------	-------

け

警告メッセージ	131
ゲームポート/MIDIコネクタ	7、54

こ

コンピュータウィルス	64
コンピュータ本体の不具合	116
ゴム足	10

さ

サウンド機能	53
--------------	----

し

システムの拡張	65
仕様	143
省電力機能	55
~に関する不具合	119
シリアルコネクタ	7、63

す

数値キー	34
スクロール	38
スタンバイ	56
ステップバイステップインタラクティブ (SBSI)....	28
~のインストール	113
スピーカアイコン	28
スピーカの不具合 (内蔵)	130

せ

セーフモード	123
セットアップ	17
Windows 2000インストールモデル	20
Windows XPインストールモデル	22

た

縦置きスタンド	10
タスクバー	(10)(11)
タブ	(10)(11)
ダブルクリック	38

て

ディスプレイ	49
~機能	49
~の接続	12
~の不具合	122
デスクトップ	(10)(11)
電源コードの接続	16
電源コネクタ	7
電源スイッチ	6
電源の入れ方	19
電源の切り方	29
電源ランプ表示	56
添付ソフトウェア	5

と

ドラッグアンドドロップ	38
-------------------	----

に

日本語入力システム	35
-----------------	----

ね

ネットワーク	
~機能	62
~に接続する	15、26
ネットワークコネクタ	7

は

ハードディスクドライブ (HDD)	44
~領域の変更	102
~の不具合	125
パスワード	90
Supervisor Password	90
User Password	90
バックアップディスクの作成	24
パラレルコネクタ	7、63
ハングアップ	32

ひ

表示色の変更	51
--------------	----

ふ

フォーマット (FD)	42
復帰方法 (省電力)	61
プリンタの不具合	130
フロッピーディスクドライブ (FDD)	39
フロッピーディスク (FD)	39

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 6、53

ほ

ボタン (10) \ (11)

ボリューム 6

本体カバー 68

～の取り外し 68

～の取り付け 70

本体内部ケーブル 142

ま

マイク入力コネクタ 6、7、53、54

マウス 38

～ドライバのインストール 110

～のお手入れ 134

～の接続 15

～の不具合 121

め

メモリ (DIMM) の不具合 128

ゆ

ユーザーパスワード 90

ら

ライトプロテクト (FD) 43

ライン出力コネクタ 7、54

ライン入力コネクタ 7、54

り

リカバリCD 5、99

リセット 31

リチウム電池の交換 136

領域の作成 112

リモートブート 62

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました。万が一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

インテル、Pentium、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標(地域によっては登録商標)です。

IBM、PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

エプソン販売株式会社



大豆油インキを使用しています。



このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77224003 03.01-00.60(SO)